

静中・静高  
関東同窓会

# 会報11



### 巻頭のことば

会長 宮澤次郎

新茶のみつみづしい味と香りに静岡の初夏の風が思出される季節になりました。

今年もまた同窓生が総会に集い心楽しく交歓できますことは、まことに御同慶に存じます。

私共の同窓会も最近若い皆さんがよく会の活動に参加されるようになりまして、幹事会では毎回学生会員諸君が出席され、進学新会員への連絡その他に活躍されております。

このように、同窓会のあり方が私共の年来心がけて参りました姿に段々に近づきつつあるように考えられますことは、この上ない喜びでございます。

これから更に一步を進めまして若い諸君と先輩とが互に知りあい語りあい、良き相談相手となることができるような、いつも新鮮で若々しい同窓会でありたいと希っております。

### 新年懇親会

一月二十一日、新宿のトップランムーア社未来開室に於て、恒例の関東同窓会新年懇親会が催された。今年内外諸問題の厳しい時でもあり、各界に活躍される同窓生に有益な講話を依頼しようという事で、別掲の67福原享一氏に最近の中国についてお話を伺うこととなった。

出席者会長以下四十五名、講演後は簡素ながら楽しいパーティを行い、格安の会費の事もあり仲々好評であった。

### 福原氏の講演

福原氏は一九七八年まで共同通信社の北京支局長として在勤された中国通であるが、前記の様に本会の新年懇親会に於て最近の中国について次の様に講演された。

#### 講演要旨(文責在編集委員)

私の北京在勤は約二年前までの事で、その後中国に大きな変化が起きていたので、最近の中国事情というより、混乱を極めている様に見える中国について、どう見たらよいかという事の整理を試みて参考に供したい。

中国の現況については極端な悲観論も出ている程であるが、中国

人自身は、以前独特の精神主義的政治中心であったものを、経済重視の政治に大転換するのだと樂觀的な説明をしていた。

例えば李先念副首相は一九七八年日本の経済界代表との会見で次の様に述べている。

今後中国は経済に力を入れる。中国は日本に比べて、国が大きく資源豊富である。社会主義体制であって資本主義より効率が低い。

日本アメリカと利害が一致している等国際環境が有利である。

従って日本の高度成長以上の速度で経済発展するだろう、と。

このような考え方で中国はソ連東欧より柔軟且思い切った政策で取り組んだ訳であるが、二年後の結果としては経済建設大失敗と言わざるを得ない。

さて、政治的混乱と言われているのは、党及び政府首脳人事が不明瞭な事、即ち、華国鋒辞任では何が起っているのか、その意味、理由、後処理等がすべてはつきりしないのである。

この不明瞭さが中国式と言えはそれまでだが、これが国の政治経済運営に如何に大きなマイナスとなっているかが中国自身によく認識されていないと思はれる。

華国鋒の首相辞任は公式に発表

された事実である。理由は必ずしも公式に説明されていないが、彼等が強調している事は次の様である。

権力者に権限が集中し過ぎていて合理的に運営できない。

最高首脳は革命の功労者が何時までも占有して死ぬまで変らない。これを改める為に党主席と首相を分離する事として華国鋒は首相を辞めた、と。

然し、裏の見方では、権力斗争があつて、現在主導権を握っている鄧小平派は華国鋒派と連繫してやって来たのだが、その段階が過ぎたと考えて追落し、切捨てた、とも考えられる。

又今年元旦の人民日報社説は、中国の経済状況は問題をやらんで居るとして、インフレの危険、経済のアンバランスから昨秋決定した許りの予算及び経済計画は大巾に修正変更を要する。これらは最高首脳の中の現実離れた観念的な運営をやった者に責任があるといったニュアンスであった。

この様に自国の内情について、はつきりと言ひ、反省ムードの元旦社説は珍しい事で、事態を深刻に考えていると見受けられる。

その他、四人組裁判で毛沢東の誤りが公然化し、毛の推輓で主席

建築コンサルタント・設計施行業務  
建築に関する御相談は御気軽に……

## 株式会社 大 雄

取締役社長 奥野孝 (53回)  
取締役営業部長 奥野広 (58回)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階  
TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

## 株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野孝 (53回)  
取締役社長 奥野進 (56回)  
取締役副社長 吉川善吉 (56回)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル  
TEL 03-842-6831 (代表)  
静岡事務所 静岡市安東2-8-14  
TEL 0542-46-9378

首相になった事、天安門事件当時の責任、個人崇拜を煽った、等の説も出ている。

いづれにしても鄧小平派が華国鋒派を追落し、文革派が一掃されて政治態勢がすっきりできるとは受取れない。

それは人民日報社説でも前述の様に述べた他に、合理主義に対して更めて精神主義を強調し、ここ暫く現れなかった毛沢東語録の言葉「愚公移山」等を使用している所にも見られる。

更に軍の動向も亦不明である。中国の軍制では、総指揮官である中央軍事委員会主席を党主席が兼ねる事になっているが、軍を党が直接指導するのはおかしい。国の機関として国防委員会を持つべきだ等の説もあって、党主席と軍の指揮官を分離するかも知れず、現に華は党主席を辞めても軍事委員会主席は握っているとの説もある。

同時に経済改革と軍事予算の面等から軍の幹部には現首脳部に対する不満があり、華の追落しを必ずしも快しとしない様子もある。

四人組裁判も中国が法治制度・民主主義をとる事を内外にデモする効果は出て来ず、単なる政治的報復となっている。

これらを見ると、共産党全体の指導力が落ちているので再興には党全体の結果が必要で、文革派も抱き込んで行かねばならず、現在の指導部がギリギリの所どの様な態勢になって居り、何を考えて居るかが外部に不明な為に、憶測が現れ混迷を生じていると考えられる。

次に経済政策については、経済が勝負であるとし、日本に見習って経済を発展させねばならないという事で趙紫陽を登用したと考えられる。

趙は四川省で思い切った経済政策を行って業績がある。彼は経済改善の為に制度の改革が必要であるとし、以前は、上から示される計画経済でガンジガラメに縛られて居て、下の者のやる気が押えられて居た事を改め、企業・個人の自主性や実績による収入の様な経済的刺戟政策を強力に推進した。

然し二、三ヶ月後の結果は裏目に出て、インフレの恐れを起し、経済計画を変更せざるを得なくなった。インフレの状態としては昨年の通貨発行高二〇%増、物価は公式発表で七%高(実質一五%)となっている。

これは、従来の重工業重点を農

業重点に改め、農産物買付価格を引上げて、日本の食糧会計赤字の様な状態を起した。同時に社会主義経済の修正を行って、個人企業及び自由市場を認めた。又小企業労働者の賞与を認め賃金引上を行った等の事が原因とされている。

考えて見ると中国経済はインフレが無い事を自慢にしていたが、その為に経済は沈滞して居た。今度インフレ気味にして経済に活力を与えようとした訳で、日本経済はこの様な政策を上手に運用する事によって発展して来たとも言える。

中国の場合、この様な経済政策に経験が無く、官僚的な内部連繋不良もあって、農業・小企業・サービス業のみが刺戟を受けて、基幹産業に及ばず、大プロジェクトに投資しているのに生産性が上らず、物資が出て来ないという状態になった。

之に対して、現在極端なデフレ政策を採ろうとし、特に大規模の建設事業の予算をカットしようとしている。之は前述の経済政策に不馴れで自信喪失の官僚が、昔ながらの政策に戻ろうとして居るので、恐らく経済の冷やし過ぎが起るであろう。

この辺が軍の不満や政局の不透

明さに現れている様に見えるのだが、中国人自身は別の考えを持っている様で、は鄧小平訪中議員団に対して、中国は農業国であり、農民の潤う事は国の安定を示すものだと言っている。

然し、政治態勢の安定、経済政策指導者の能力、企業に於ける中堅幹部の能力、或は技術者の結びつけ方等の点で未だ力不足で、今後の経済政策に内外からの信用を得ていない様に見える。

ここに前述元旦社説で更めて精神主義を鼓吹しなければならぬ原因がある。又宝山製鉄所計画の変更交渉に於ても決定権限の所在や責任者が不明である様な面を曝して居り、中国の指導者が上から下まで知識も信念も無く、自分の利益を守ることに汲々としていると見られた所に前述の悲観論がある。

私の見方としては、政治経済の運営はうまく行っていないが、先の鄧小平の言葉の様に、先づ農民に恩恵を与え、社会主義のしくみよりも一般大衆の生活水準を上げなくては国はもたないと認識し、現実を直視して取組む、その為に今までの失敗を認め分析する。又外国に対する勉強のし方も地について来た。特に日本に対する態度

### 株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平(42回)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701(大代表)

### 合同酒精株式会社

取締役副社長 堀 豪 三(44回)

東京都中央区銀座6-2 合同ビル

TEL (571) 8641(大代表)

は最近大きく変っている。

結論的に、今後は段々と良くな  
って行くであろうと考えられる。

終りに私が毛沢東スローガンの中  
で最も心に残る言葉として

(月見里記)

## 静中軍事教育事始め

芹 澤 正 憲 (43回)

国防問題をタブー視してきた世  
論も晩近とみに変ってきてハト派  
タカ派入り乱れてのカンカンガク  
ガクの防衛論争が。いまや花盛り  
である。『アメリカがクシャミを  
すれば日本はカゼをひく』の喩え  
のとおり、這般のレーガン陣営の  
地すべりの大勝がたちどころに  
飛び火して、デタント希求の柔軟  
姿勢を一挙に吹きとばしてしまっ  
た。

そそぐ結果となった。妖怪変化が  
いっせいに蠢きだしたと皮肉られ  
る所似である。

黎明期の先覚、柳田国男は『歴  
史は多くの場合悔恨の書である』  
といみじくも喝破した。まこと国  
を荒廃させた敗戦からわれわれが  
学びとったことは、すべて悔恨の  
二字を冠せなければならぬ懺悔  
録ばかりである。もしもクレオパ  
トラの鼻が低かったらと言う史書  
に慣用される比喩を借りるなら、  
もしもあの時日本が独・伊と手を  
組んで三国同盟を結ばなかったら  
ば、と言う仮定の結論は歴史を大  
きく変貌させていた筈である。現  
在世界が東西両陣営に別れて対立  
している以上、観念論的な非武装  
中立は現実にはあり得ず、何れか  
の陣営に属さねばならない筈であ  
る。一端手を握り合った以上はと  
ことんまで運命協同体のみちを選

ばねばならず、さりとて中途で離  
脱しようとする試みは更に悲劇的  
な結末をもたらすことをわれわれ  
は歴史の教訓として学んでいる。

いまや派閥力学のバランスの上  
に誕生した鈴木首相は野党側の日  
米防衛力を目の敵として猛迫する  
さ中、『強いアメリカ』の復活を  
掲げるレーガン政権の防衛力増強  
の要請に対してようやく対応のハ  
ラを固めて、トラの子の防衛計画  
大綱を手土産に日米首脳処女会談  
に臨もうとしている。右するか、  
左するか、この選択が悪魔の選択  
となるかどうかは議会制民主主義  
の多数決のルールが決める問題で  
ある。果して安定多数で押し切る  
のをそのまま放任するのが時代の  
正義であろうか。国民個々にとっ  
ても運命の岐路に立つ痛切な問題  
であろう。

戦時中南限の孤島であけくれ来  
襲する重爆の定期便と交戦、さる  
日執拗な随伴機の低空機銃掃射に  
さらされて被弾し、バナナの葉蔭  
の野戦病床で呻吟すること半歳、  
死生の巷を彷徨して辛くも命なが  
らえたわれら。またそれが故にひ  
としを戦争を忌み平和を希求する  
われら老輩が青春の日、突如静中  
校史に破天荒の軍事教育事始めに  
遭遇した。何の心準備もないまま

に稚拙な戸迷いを繰返しながらも  
実戦に対応する厳しい戦斗訓練、  
必勝の信念を培養する精神訓話な  
どを通じて、じわじわ傾斜を深め  
て行く戦争への胎動のサタンの黙  
示録のように不気味にきいていた  
ことどもを、自身の青春の形見と  
すると同時にこのような青春が存  
在したことを次の世代の青春に伝  
えたい気持ちで叙述するのも、現代  
の世相、ギクシャクした世のうね  
りにふさわしいと信じ、ここに拙  
筆をとる次第である。

いまや老醜をさらしているわれ  
われ、李白の表現をかりれば銀  
鞍白馬に跨って颯爽と春風を度つ  
た美少年時代(大正十四年)に陸  
軍現役将校学校配属令という勅令  
が公布されて、わが静中に現役将  
校であるK少佐が、次いでY大尉  
が軍事教官として配属され校史に  
破天荒の軍事教育がはじまったわ  
けである。この軍教実施には一応  
の大義名分があった。当時宇垣陸  
相のもとでワシントン軍縮条約で  
の調印義務を踏まえて、わが陸軍  
でも四個師団の兵員装備の削減廃  
止に踏切らねばならなかった。そ  
の煽りを喰って軍籍を失う多数の  
現役将校の処遇に頭を痛めて冗員  
となった将校を学校配属として温  
存すると言う窮余の一策であった

と言われているが、何分大正デモ  
クラシイ後の厭軍風潮の漲る時代  
のこと、一応そうした理由で表面  
を糊塗したものらしい。しかし、  
ホッネは将来の戦争対策の一環、  
即ち温存した将校をそのまま戦時  
の軍拡の砌りの振り替え要員とし  
て、また生徒に軍教を課すること  
によって幹部候補生制度による戦  
時の予備役初級士官並に下士官の  
大量補充源の確保を狙った。軍当  
局の一石三鳥の根廻し策であった  
ようである。率直に批判するなら  
当時の軍部の心底のハラは例え確  
度の高い情報でも国民を刺激して  
逆効果をもたらしかねないもの、  
ゴリ押し政策と受取られる虞れの  
ある向は、極力伏せて公開しない  
方針であったらしい。このように  
軍部の情報公開の密室性は早くも  
昭和初頭のこの時代に胎動をはじ  
め、戦争中に核分裂的に拡散され  
ついに終戦前後の大本営情報に至  
って怪奇の極限に達した現実は刮  
目すべきではないだろうか。更に  
当時の軍部の狙う軍教のホッネを  
追加するなれば、戦争対策はもち  
ろん国家の総資源を可能な限り動  
員することに尽きるが資源と物量  
の乏しい日本は、この弱点をカバ  
ーするため日清戦役当時と同様に  
戦う兵士個々に必勝の信念を植え

風吹けばカメレオンのように色  
を変えるノンポリ連中までがバス  
に乗り後れじと遽かに豹変して誰  
だ！安保を骨抜きにしようとする  
のは、只乗りなどもつての外であ  
る。日米の軍事力を速やかにセツ  
トにせよ。火急に脱皮して日本よ  
国家たれ！などと大きくぶって暗  
に改憲のコペルニクスの転換を迫  
ったり、果ては核武装の爆弾提言  
などでさらに論争の輪を揚げ油を

ことんまで運命協同体のみちを選

遭遇した。何の心準備もないまま

存すると言う窮余の一策であった

戦う兵士個々に必勝の信念を植え

つけない限り戦勝はありえない。即ち端的に言えば、戦争は飽くなき斗魂を不可欠とする拳闘と同じくハングリイスポーツであるとの想定の下に、この際将来の軍の基幹となるべき学生生徒に軍教を課することに依って必勝の信念の起爆源となるバックボーンの武装化を計ろうという遠大なプロジェクトの一齣であったようである。然るときは戦争回避の金科玉条でもある軍縮がデモクラシーの世相とは裏腹に軍国主義的な軍事教育につながり、やがてそれは戦争への路をひたむきに驍進したこととなり、正に瓢箪からコマがでた、とも言うべき珍現象ではなかったろうか。

× ×

昭和二年われら四三回生が五年生に進級した始業式は雨にたたられ通しの二十日会祭のらくの日で満開の桜も小夜嵐にうたれて惨めながらも、時折りテンテン、テレスコテンテンの浅間囃子がそよ風に乘って校庭を和ましていた。折柄軍教の配属将校のY大尉が着任してきたので、その挨拶をかねて朝礼がとり行われた。一同の注視のうちに、新任大尉の精悍な赫ら顔が、颯爽とクローズアップされる。ニューモードの軍帽といくら

か反り気味の金ピカの肩章、長目のサーベルの鎖をがちやつかせてカラクリ人形のようにガクリ、ガクリといちいち拳止にけじめを付けないが壇上に上って不動の姿勢をとるY大尉！『ブーさんとはお月さんとスッポンほど違うなあ』列中から誰やらの皮肉な囁きもれてくる。Y大尉の隣りにならんでいるのが静中のヌシともいわれて軍教とは無関係に、それまでの長い歲月、体操教練を受けもってきた日露の役の生き残りの老勇士小林ブーさん後備役大尉である。

ブーさんは新進気鋭の少尉の頃勇躍日露の役に出征して、初陣の若武者ながらも得利寺の戦いで敵陣に切り込んで阿修羅となつて奮戦中、名譽の負傷を負い、栄ある金鶏受章の栄冠に輝いた赫々とした経歴のつわものである。

巷間で愛唱された、遼陽城東秋更けて、の軍歌は、その得利寺の激戦を目のあたりに彷彿させている。その折り一度は失うべき生命を生きながらえて、退役後の余生を母校静中での体操教師として忠実に服務して、以来長い風雪に堪えてきた老兵である。風采など一向に頓着せぬブーさん大尉は、きよの晴れがましい舞台でも日露以来の軍帽をあみだにかぶり、鏘

びついて階級不明の肩章の怒り肩をしょんぼり落して、渋紙のようなヒゲ面から三白眼をギョロリと光らせている。口さがないわれらから、煙突から這い出た乃木將軍！と揶揄される所似である。見れば、そのブーさんが歩調をとりながら三歩ばかり前進したてではないか。小声でなにごとかぶつぶつ言っつききとり難いが、要旨は本日から教練の主尊権を新任教官に譲って自分は助教的立場に退く旨の挨拶らしい。忽ち列中から、チエツ、まるでオイチニの菓売りだな！という囁きが湧き起つて、生徒らはクスクス笑いを噛み殺すのに懸命だった。オイチニとは、その頃の巷のピエロで軍服姿で手風琴を奏でながらオイチニサン！と歩調をとって征露丸を売り歩いた売薬行商人のことである。

次いで名校長といわれた根井校長の紹介が終るや否や、Y大尉は大喝一声、休め！の号令をかけ、次にすかさず裂白の気合もろとも氣を付けえ！と独特のイントネーションで怒号して、まず居ならぶ生徒一同のドギモを抜いた。『不肖Y大尉は光輝ある静岡中学校に軍事教官として配属を命ぜられたことを身に余る光栄と感激している。これから諸子を兵隊同様に心

得えて、厳格な軍事教育を実施する。左様覚悟しておけ！終り』ハトが豆鉄砲を喰らったように目ばかり白黒させている生徒の頭越しに矢次早に浴びせかけた。それから再び念入りに、お前たちの腑抜け魂に喝を入れて焼き直すためオレはこの中学に派遣されたのだぞよ、ユメユメ疑う勿れ、とばかり横隊を先頭から端までじつと穴のあくほどねめ廻した。

× ×

その頃世の中は不景気のドン底に呻いていた。昭和恐慌と呼ばれて大震災後の国力を超えた復興事業に追いまくられた公債の乱発、入超による国際収支のアンバランスなどで通貨の膨脹をきたすなど悪循環が重なり合い、大衆の購買力の激減は経済の逼塞を誘い、やがて銀行の取付けに飛び火して、その煽りを喰って大小の企業が将棋倒しに倒れて行った。かつて東海道指折りの商店街として殷賑をきわめた呉服町、七間町にも『談店』『店じまい、メチャメチャ安売り』などの貼紙がおちこちに貼られて、かつて羽振りのよかった老舗の夜逃げ話などが巷の話題を賑わしていた。その頃はやり初めた「おれは河原の枯すすき」のペーソスが挽歌のように流れる札

の辻あたりで、大学は出たけれども、おきまりの就職口にありつけない先輩連中の栄光の角帽を鳥打帽に換えた尾羽打ち枯らしたうらぶれ姿に出合うと、ひとごととは思えず明日はわが身とそぞろ身に沁む夜風であった。

そうしたじめじめした世相をかくぐぐってY大尉の教練は最初の爆弾声明どころか、さらに追打ちをかけるように拍車がかかって奔馬のように暴走する。『もつと伏せろ！タマがとんでくるんだ。それじゃ頭かくして尻かくさずじゃないか！』ピシヤリと褒美の笞が飛ぶ。『おいッ！そのゴリラのように歯を剥き出している生徒！口をキリリと結ばんかい。なに？反ッ歯だ？いい加減言っごまかすな。気合が入っておらん証拠だ。罰として校庭一周、全力で駆け足！』忽ち怒号が追いかける。十八番の駆け足罰では校庭一周どころか遙か浅間山の一本松まで走らされて、帰途蜜柑を捕虜として意気陽々凱旋した英雄もあつた。雨もよしの空がいつしか本降りとしとと雨に変わって、校庭のおちこちに掘ったタコツボに水が溜り始めた。生徒らは当然教練中止と思い、号令をいまかいまかと待ち構えたが、肝心の教官はキツ

ネの嫁入り雨だと主張してさらさら中止する気配がない。それどころか、ついに生徒らが頭からぐっしょりの濡れ鼠となっても、照る照る坊主を口吟んだりして、いまにカンカン照りになると言い張って頑として自説を翻さない。しびれを切らせた誰やらの即興のハクション連発の俄かカゼの演出が効を奏して、ようやく教練中止の命令が下り、『解散して記念館へ集合』ということに相なった。

校庭の一角に立っている記念館の階下は銃剣の格納庫になっていた。そこには種ヶ島に鉄砲伝来の頃渡来した火繩銃の少し進化したものらしい元込めのエンピール銃やレーガン銃、西南の役で薩摩ハヤトを苦しめた村田銃、日清の役で変幻自在の手品師のようなチャイニーズを狙い撃ちした連装式の三十年式銃、日露の役で軍国日本のバイタリテイの名声をいやが上にも高からしめ、ついには黄禍論の副産物さえ抬頭せしめた当時の超新鋭銃である三八式銃など、各種の銃が数百丁、整然と右へならえ、して銃床棚に納まっている。恰も小銃進化の過程を物語る歴史の標本を展示したミューゼアムのようである。生徒らは春の大運動会の華としてフィナーレを飾るメ

インイベントの攻城戦や分列行進には三年生は村田銃、四年生は三十年式銃、五年生は三八銃と夫々区分されて、着剣の上、担って威風堂々々々観者の前を分列行進するのが慣行であった。

『今日は残念至極ながら、教練を取止めて銃剣の手入れ作業に切り換える。前回教えた要領で手入れを実施せよ。再三訓示するように、銃剣は軍人の魂の宿る大切な兵器である。よろしいか！旺盛な軍人精神を発揮して、粗漏のないよう入念に手入れせよ。ホトケ作らばタマシイ入れよ。よろしいか。復唱をせんか、復唱を。終わらば当番生徒の指揮で解散！』とガツポーズを作りながら宣告して、一向に降り止まないキツネの嫁入り雨にしょぼたれて引揚げて行く。キツネのご婚礼にお呼ばれかと一矢報いながら後姿をこわごわ見つめていた生徒らは、教官の姿がカラタチの垣根に消え去るとほっとわれに帰って、『こんな態たらくじゃ、いよいよ校門の表札も書き換えなけりゃならんぞ。陸軍幹部候補生予備学校青葉ヶ岡分校！』と誰やらが不貞腐れ気味で呟けば、忽ち頓狂な声が撥ね返って、『正にそのとおり！それに分校長ドカン陸軍歩兵大尉と添

え書きして置けば完べきだ！』とほざく。

ドカン大尉？誰のことだろう。まさか教官のことじゃないだろうな。あいつが何処から仕入れてきたネタかしらんが、耳なれない名前じゃないか、一同戸迷った。

ここで去る日、クラスのある生徒が聯隊の兵士から仕入れてきた特種情報『ドカン大尉の巻』を披露することしよう。さる生徒に依れば、聯隊では教官のことを大尉などと公式名前で呼ぶ兵士は一人もおらない。恰く、ドカン大尉の仇名で罷り通っているのと。入隊早々で事情にうとい新兵などは、ドカン大尉というのが天晴れての名前と思込んで、不覚にもドカン大尉殿に申し上げます！などと直立不動の姿勢で申告して大目玉を喰らったものもいるくらい普及度は高い、とのこと。またその仇名のご事来歴は、さる戦争の際、土管の中にもぐり込んで、雨あられと飛んでくるタマを除けながら、兵士に進め、進め、突撃！と号令をかけたのが、その栄光あるニックネームの由来譚である、とのことであった。

に口あんぐりで二の句がつけなかつた。

いまのいままで教練こそ苛酷だったが、それも一徹な軍人精神のなせるワザ、と善意な解釈で帳消にもなりえしたし、またそれ故に、いざカマクラの戦場では阿修羅の権化となって雄叫び高く戦うものと期待されていた。その期待に反し、恰も臆病神に取り憑かれた卑怯者のような印象を受ける、この仇名の由来譚にめぐり合って、一同つわもの名折れだとはかりがっくりとなった。

その時の秀才が『土管の中にかくれて指揮をとったからと言ってすぐに卑怯者呼ばばり可哀相じゃないか。ボクはむしろ頭腦的な指揮ぶりと思うな。雨あられのタマの中を突撃の号令をかけたが自分もメクラ蛇のように猛進するのは命知らずの猪武者のやることだと思ふよ。格好の目標となつて一斉射撃を浴び斃されるにきまつて。それより身近な掩体を利用してわが身をかくし、冷静に情勢を判断しながら指揮をとる方が遙かに頭脳的で現代軍人らしいと思うな。命を安売りしたのは葉隠れ時代の武士のすること。「武士道とは死ぬことと見付けたり」の葉隠の冒頭の文句を西洋人はジャップ

の狂信思想と嗤っているくらいだよ』と、いみじくもドカン大尉の礼讃論をぶった。忽ち血の氣の多い武道部の猛者から反論が起る。

『それじゃ君は雨霞のタマの中をかいくぐって敵陣におどり込んで名譽の負傷をしたブーさんを猪武者とこき下すつもりか！』と血相をかえておどろかせる。クラスの中はそれをきっかけに蜂の巣をついたように侃々諤々のルツボとなつて、果ては組んずほぐれつ泥試合にまで発展した。冷静にさるべき討論が興奮の余りとは言葉組んずほぐれつ泥試合になり下つたとはまことに稚氣満々のお笑い草であるが、肝心のニックネームの由来譚は、火のないところに煙りは立たぬの噂さどおり、事実無根のお笑い草どころか、他の筋から間違いないと大鼓判をおされたのは、われらにとって戦争の善悪や軍隊の功罪を超えて一つの大きなショックであった。しかし反面では日頃抑えつけられている暴君の上手の手からの洩れ水をかいま見たような気がして、心底ではうっ憤晴らしの快哉を叫んで溜飲を下げたのも否めなかつた。

その戦いが何時、何処で起つたかは粗忽者揃いのわれらのこと、その時点では追跡をおろそかにし

たが、按ずるに日露役後の対外戦は、第一次大戦での独逸を相手に宣戦布告をした青島攻略戦以外にはあり得ない筈である。しかしこの戦いは派遣部隊も異るし、またドカン大尉の年配から逆算してみても陸士卒業以前のできごととなるので全く関係ない訳である。文献を渉猟してそれらしい国際紛争を模索すれば、世界大戦終息後の大正の後期に、ロシアにボルシエヴイキ革命が勃発して、その進展に伴って、満州での権益擁護のため第三師団が派遣された記録が残されている。したがってその編成下の静岡部隊も当然進駐したことでありうから、恐らく、その砌りのソ満国境周辺でのバルチゼン掃討戦中のワンスナップであろうかと思われる。しかし、われらにとつて、そんな穿さくはむしろ無用の長物でしかなかった。何故なら肝心のドカン大尉擁護論に於てからが同調者がなく、全くの尻切れトンボに了ったからである。ましてや噂さが虚構であつてくれななどを願う殉教者の一人も現われなかつたのは、いざカマクラの場合の主人公の実像と虚像の明暗が、あまりにも鮮明に画かれすぎたからであらう。ともあれ教官が青葉ヶ丘で聯隊同様、榮あるドカン大尉の

愛称で呼ばれ初めたのは、それから旬日を出ないスピード振りであつた。

× ×  
わたしの耳は貝のから  
海のひびきをなつかしむ  
(ジャンコクトー)

ドカン大尉が着任してから歲月は教官オハコの駈け足のようにすぎ去つて桜が散り、青菜を迎え、やがてクローバの褥を敷きつめた校庭の三角池にはアメンボーがスイスイ泳ぎだした。耳を澄ませばほんの一、二羽だが、慥かにピルル、ピルルとテリトリを宣言している雲雀さえさえずり初めたようだ。仰げば、コイのぼりの赤と空の青さがまぶしい五月の空を染め別けて、緑の薫風に乗った矢車がさらさらと軽快な音を流している。

省れば、ほんの短時日であつたが、教官がブーさん時代の残滓をくまなく払拭して静中軍教の主導権を掌握し、新体制の秩序をレールに乗せたのは、ただただお見事と言わねばならぬだろう。したがつてブーさん大尉の役割もいつしか助教的立場に転落したのも致しかたのないことであつた。例え階級は同じ大尉であり、しかも陸士では凡そ二十年の先輩で、した

がって遙か先任者である訳だが、何分一方は陸軍現役将校学校配属令という勅令に依つて配属されてきたパリパリのハリキリ大尉、片やわが身は一昔前に退役した老軀を母校に拾われて口を糊している

しがない後備役大尉、俗俚に言うチョーチンと吊り鐘ほどの違いでもあらうか。ブーさん自身もそのように意識し、つとめて過去を忘れてひたすらドカン大尉に隸属して軍教の新体制づくりに協力を惜しまなかつた。易々諾々と命令を奉ずるはもちろんのこと、教官殿と殿付で呼び、会えば先に手を挙げて敬礼するくらいは任務のABCと心得えて、つとめて主役を引立たせる黒子になり切ることを忠実に実行していたブーさん大尉であつたが、いかにも我慢のならないことがあつた。それは張り切つたドカン大尉が生徒とブーさん

前にして、遠慮会釈もなく、「お前は新体制の軍教をなんと心得ているのか、以前の体操教練のようなフニヤケタものとは根本から違うんだ！」と生徒叱責の道具に使つたりすることである。日露の役での金鶏に輝き、頑固一徹で罷り通した老勇士のこと、プライドもそれなりに高かつた。年甲斐もなく生徒の面前であげつらわれ

たりしたときなど、いたく自尊心を傷付けられた様子だが、さりとて抗議もならず、独り校舎に背を向けて、所在なさに石割牛舎から洩れてくるものうげな牛の声に耳をそばだてたり、虚ろな瞳を麻機田圃を越えて遙かにそびえる竜爪の頂きに焦点を合せたりしている

ブーさん大尉。軍教がはじまつて以来めつきりふけ込んだそのごま塩のうなじが、半世紀を経た今日われらの臉に刻明に焼きつけられている。そんなときは多分、軍教以前の体操教師の独り天下の時代チョンボをしでかした生徒に噛みついて『その了見がよくない』とカミナリを落しながらも持ち前の人徳でか不思議に反感も買わず、かえつて師弟の情を深めたり、慕われたりした、そのよき時代のささやきを、充ちくる潮騒のようにきいて、なつかしんでいたのに違くない。

× ×  
同じ教官でも、軍教初代のK少佐は肌当りも柔らかなナイトタイプの軍人で、しかも静中出身。ブーさんが先輩に当る関係もあつてか、階級を超越して慇懃に礼をつくしたものであつた。その点、ドカン大尉はあくまで新体制下の新秩序と割切つて現在の立場でのを

考え、行動し、処理して些かもシユクジたるところがなかつた。かくしてドカン大尉ハリケーンは、ただにブーさん大尉を暴風圏に巻き込んだばかりでなく、次いで風向きを変え、風速を増しながらそのままなトラブルを巻き起した。

ある日玄関前で校長以下教職員全部が揃つて、なにかの記念撮影がはじまろうとした折のことである。後れ馳せに馳せつけたドカン大尉が一同の前でキョロキョロ自らの定位置を探がしたが、そこには据るべき椅子が置かれていなかった。写真師はすでに暗箱の黒頭布の中にもぐつて、ドカン大尉ぬきで正にシャッターは切らんとしている。慌てたドカン大尉はツカツカ校長の前に歩み寄つてなごとかを訴えていたが次いで写真師に待たされたを掛け、椅子を一脚もつてきて自分の定位置、即ち校長と教頭との間に置くことを命じた。

どこへでももぐり込めばいいじゃないか、といわんばかりの教師一同の苦虫を噛みつぶしたような視線の一斉射撃をダルマのようにギリ腕み返して、どっかり据つてねづね教頭以下の教師には己れから敬礼せず、相手の先手敬礼を憶

面もなく要求した。宴会などではヤクザの親分のお披露のように座るべき席順にこだわりぬく反面、剛腹で鳴らした校長には官等も上であるし、なまじ逆鱗にふれてお目玉を喰つてもシンキ臭いと思つてか、米つきバッタのようにへいつくばった。

ドカン大尉の言分は、自分は現役大尉で奏任官六等である。四等の校長より低い、六等の教頭とは同格だ。しかし同じ六等でも教頭は待遇官で、自分は本官であるから彼より上席であるべきで、同じくブーさん大尉は後備役であるから現役の自分が上席である、という解釈であった。

その頃教師と生徒との間は、のんびりした大平ムードが続ぎ、以前起きた校長排斥のストライキなどどこへやら、ギクシヤクシヤしたところは微塵もなく、時には師弟で一献交したりするほどの蜜月ぶりであった。そんな席上で生徒から教官の理不尽な張切りぶり、軍教の常識はずれの苛酷ぶりなどが教師の耳に入ると、かねがね教師間にうづびいていたドカン大尉への独りよがりな暴漫ぶりに対しての対抗意識が遽かにアタマをもたげてきて、それらの相乗作用は、ついにドカン大尉の軍教のあり方に就

いて『もの申す』という殴り込み型の問題提起に発展したものであった。

現実には、学校当局としても当初さしたる準備もなく唐突にはじまった感じの軍教であったため、この軍教を教育の一環としていかに位置づけ溶け込ますべきかを模索し、さまざまな試行錯誤をくりかえしていたため、定まった類型にはめえなかつたのも、過渡期にあり勝ちのことであった。ともあれ大正デモクラシーの洗礼を受け自由主義者の多かつた教師側からドカン大尉へ提起された問題点のヤマは、新しい軍教をブーさん大尉指導の体操教練のように飽くまで普通教育の一コマとして位置づけ特殊扱いをしたくない、という教師側の教官理念を教官を通じて再確認することにあった。それに対してドカン大尉は烈火の如く怒って猛虎のように咆哮する。軍教は国家の緊急要請で施行される特殊教育で、煎じつめれば軍人としての予備教育である。普通教育の一齣などでは断じてない、と頑なに主張して教師側の要求をケンもホロロに撥ねつけた。思わぬパンチを喰らってふらついた教師側も体制を立て直し、結束を固めて、ますます態度を硬化させた。かく

して両者の見解は平行線を辿りながら完全に対立したのであった。

× ×

この教官対教師の紛争は、軍教開始の去る大正十四年、配属された初代教官のK少佐と教師との間で、いち早く悶着を起した曰く付きの紛争で、今回の件は正に蒸し返しであり、またそのマト紋りでありケジメづけでもあったわけである。略述すればK少佐が配属されてきた直後、静岡聯隊と静中との間に合同演習が企画されて、さる日われら三年生は校長以下教官ブーさん大尉と諸教師に引率されて安倍川上流の伝馬町新田の競馬場に向つた。そこで聯隊側の一年志願兵凡そ百五十名と落合って、主として歩哨・斥候・幕営作業などを対象に合同演習が始まり、同夜はそこで飯ごう炊きした後、天幕露営の予定であった。折悪しく雨となり、雨は風を伴って、ついに篠つく豪雨となった。低地に張つた天幕の裾はまくれ上り、中は寝床の敷わらまで浸水して生徒らは濡れ鼠となつてとても露営どころの騒ぎではなくなつた。引率の教師達は鳩首協議の末この悪コンディションでの演習続行はとて不

可能である。すでに正常教育活動の限界を越えていると主張して、即時引上げ解散を唱え、この旨を校長とK教官に上申伝達した。

然るところK教官は、この演習は勅令によって定められた軍事教育の一環である、近き将来予定されている幹部候補生制度の公布された砌り、幹部候補生となるべき生徒に対する軍事的な予備教育を実施するのが目的である、正常の教育活動の枠外にあるという点を特に理解してもらいたい。生徒達も辛かろうが、風雨中の幕営訓練も、さまざまな軍教の体験のひとつで、将来幹部に任官した場合、必ずや有益な体験となることと思ふ。ゼヒご理解の上、訓練に従うよう生徒を指導して貰いたい、と教師側の意向を述べるスキ間を全く与えず一方的にまくし立てた。

しかし主旨は今日のドカン大尉と全く本質の差異はなく、軌道を同じくしている。唯ドカン大尉とK少佐の違うところは、少佐は静かに詢々と説く、いわば説得型で、当りも軟かなのに反し、大尉のはガムシヤラで、絶叫調、口角泡を飛ばすのがいたく反感を買い易いという違いがあるだけであった。教師らは校長の幕舎に赴き、裁定を求めた。

さすが剛腹の校長も左せん右かせんかで決断に迷って額に苦悩の皺を浮かべていたが、元来、性格的に軟弱な文治派よりはむしろ武断派に近いタイプのためか、ついに教官の主張に軍配を上げる結果となった。教師側は強力な味方と確信していた校長の、この逆転のような裁定に狼狽しているうちに教官の強引な両手突きで他愛なく土俵の外に押し出されるといふホロ苦い経験なめたわけである。

しかし教師側は、それはきこのまできごと、そんな悪夢をそのままきょうは通用させんぞ、とばかり張り切つて今回は予ねて慎重に用意したトラの巻を引っぱり出してきて、それを特攻兵器としてドカン大尉の面前に叩きつけたものである。そのトラの巻とは、這般静中に軍教の査閲官として来校したドカン大尉の直屬上司である静岡聯隊長のその砌り、査閲講評のコピイである。その講評の主旨は『軍教の主たる目的は教練そのものではなくて、これによって涵養される規律、質実剛健、共同精神の発揚にある。この線に沿つて今後共諸子を指導して完全な社会人を作り出したいと思ふ』と言うように述べられている。因みに学校教練に対しては毎年一回陸軍大臣の任命した教練査閲官による査閲が義務づけられていて、多くの場



合その地域の聯隊長がその任に當るのが恒例であつた。教師側は右の講評の主旨を煎じつめれば『軍教の目的は軍人を作ることではなく完全な社会人を作ること、教練はその手段にすぎない』という至極単純な理論となる、しかもこの理論はドカン大尉の直屬上司である聯隊長が軍教の査閲官の立場で述べた、いわば軍部の軍教に対する公式見解と見做してもよい筈である。然らば軍教はレッキとした普通教育の一環であり、お世辞にも特殊教育とはいひ難い。このよ

うな性格の軍教をドカン大尉は曲解して生徒に苛酷な教練を強いることは軍教本来の目的を逸脱した暴走行為ではないか！とにじり寄つた。

教師側は反応やいかにとみづめ乍らも、いつもの例から、ドカン大尉の反駁口角泡をとばす逆襲をいまかいまかと、おぼろげに乍ら取り囲んでいた。しかしどうしたことだろう！きょうのドカン大尉の赫ら顔には、持前の豪慢さも精悍さもクスリほどもなく、心なしか青ざめているようだ。しかも口元には泡一つ見えず、キリリと結んでカキのようにおし黙つたままである。泡とつばきの逆襲を覚悟して、尻びり腰でドンと来いと待

ちがまえていた教師側は、いささか拍子抜けの態たらくである。なにか割切れないものが潜んでいるんだな？なんだろう？教師側もしきりに首をひねりながら勘ぐつてみた。そして思うフシに突き当たつたのか、ハタと手を打つた教師もいる。

やがて長い沈黙の後ドカン大尉は、ようやく重い唇を開いて囁くようにつぶやいた。『教師諸兄のご質問は承け給つて置きます』と冒頭して、ここで答えを出すべきだが、こと上司に關係する件もあり、この点打合せて確認の上返事をしたい。就いては今月末日迄の猶余を給りたい。とのきわめて事務的で精彩のない返事が返つてきた。帰途、さる教師が、われわれは勝つたのだ。すべてわれわれの思惑が適中したのだ。それもわれわれがベンケイの泣きどころを衝いたからだ。まこと、あそこがドカン大尉の、そして聯隊長の、さらに軍首脳部のベンケイの泣きどころとは！ベンケイの向う脛だつたとは！われわれは烟眼にも、いち早くそれを看破つたのだ。それが勝利につながつたのだ。プラボ

ー！とうきうきしながら解説めいたことをほざく。一同ようやく愁眉をひらいて、折柄中天にかか

たさやかな夕月を眺めてにっこりと微笑み合つた。

まこと、教師側の指摘するところは、聯隊長は軍教を『軍人づくりの特殊教育ではない！』と言葉を濁すのに対して、ドカン大尉は、『軍人づくりそのものの特殊教育である！』とそのものズバリきつぱりと言ひ切る。両者の主張のズレは正に天と地の相違である。

片や、きれいごとのカタルシスを主張、こなたドロにまみれても真珠と主張。両者の主張は両極に別れて完全に対立しているわけである。言葉を変えて言えば、ドカン大尉の灰色の主張が正しければ聯隊長のバラ色の主張は間違つて

いることとなる。何れが是で何れが否か。世の習いからすれば経験者である上司の主張を採るべきだが、このケースは教師側の思惑どほり多分に複雑な事情の秘められて

いる可能性もあり、したがって階級に拘泥せずドカン大尉の主張に合理性があるものと判定して軍配を挙げざるを得なかつた。

ここで、率直に真相を語るなれば、軍教実施当時の軍首脳部が、折柄の大正デモクラシーで厭軍風潮の漲る世をはばかって、軍教のホンネであるべき学生・生徒に軍教を課することよつての幹部候

補生制度の確立、引いては戦時の予備役士官・下士官の大量補充源の確立を狙つた重大なプロジェクトを、ひとまず棚上げとして伏せなければならなかつたことに起因している。そして羊頭狗肉にも、軍縮で軍籍を失う現役將校の救済策という副目的のみに絞つて、それをタテマエ論として世に押し出して国民の眼を糊塗したことが素因となつて両者の主張に致命的なズレを招いた訳である。更に両者の齒車の噛み合わないのを短絡すれば、当時の軍部の情報公開の基

本方針は、例え確度の高い情報でも国民を刺戟して逆効果をもたらす虞れのある情報は伏せるか、または握りつぶして公開しないという方針、言うなれば情報公開の密室性が厳然として軍の大奥にアグラをかいていた点を強調しなければならぬ。

なお追跡すれば、たとえホンネ・タテマエ論はどうであれ、いやしくも陸軍現役將校学校配属令というレッキとした勅令によつて施行された軍教のことである。慣行どおり必ずや施行細則が制定され

ばドカン大尉、並びにK少佐両現場担当者の見解主張が、奇くも付牒を合せたように全く一致して

ることでも、その背後に準拠すべき細則または典範類があつたこと証左する雄弁な証拠となるものであろう。即ち軍教は国家の緊急要請で施行される学校教育の枠組の上に立つ特殊教育である旨、近き将来兵役法の改正により幹部候補生制度の公布発令がなされる筈だが、その砌りは一年志願兵制度並びにその費用自弁制は廃止されてそれはそのまま新制幹部候補制度に科行する旨、新制幹部候補制度はその資格として配属將校のおこなう教練を終了してその検定に合格することを必須條件とする旨、なおその検定成績により甲種は予備役士官、乙種は予備役下士官として分離養成する旨、等々を骨組とする細則が付随されていた筈である。恐らくこうした細則は、当

事は『部外秘』として現場担当將校には洩れなく手交、携行されていたものと思われる。しかし洩れ易きはコンフィデンシャルの例えのとおり、いつしかジャジャ洩れとなつて、ついには公然の秘密化したものであつた。

ともあれ、この視点に立てば、バカ正直なドカン大尉は四六時中軍教の現場で汗水たらして、ウソのつけない性格から、ともすればホンネをさらけ出してあげ足ばか

りとられ乍ら、その上、青葉ヶ岡内外の生徒・教師、果てはコンビのブーさんまでを含めてのオールファミリーから総スカンを喰っていた。それに反し、査閲官である聯隊長は、上層部からの通達により、政治性という虚構のオブラードでふんわり軍教を巻きくるめながら『軍教の目的は健全な社会

人を作ることである。訓練はその手段にすぎない』などと、根も葉もないことをノホンと言いのけて、駿府城頭、馬上颯爽とラッパに送迎されて宮門をくぐっていたとは、ブラックユーモアを絵に画いたようなパロデーではなからうか！ げに、罪つくりな聯隊長殿ではあった！

## イルカと人間(完)

36回大村秀雄氏の著書から

編集委員 月見里 得知郎

「イルカと人間」は会報七号以来その東西両洋にわたる広い知性と古今を通じて匂うロマンとで私共を楽しませて参りましたが本号で最終回となります。

大村先輩の御好意に對しましてあらためて御礼を申し上げます。

尚、本書を御紹介して置きますと次の通りです。

イルカぶっくす 1  
イルカと人間 大村秀雄・著  
海洋出版株式会社

### 切手の中のイルカ

ある意味での現代人気者の切手

に、イルカがどのように使われているか、それを述べておこう。ただし私は切手のマニアではない。私は大分前に「鯨研通信」に日大農獣医学部の露木英男さんと共著で「鯨の切手」と題して何回かの続き物を書いたことがある。切手の蒐集そのものは露木さんの行ったものであり、私は説明を若干つけ加えた程度であった。ここではその中のいくつかと、それに多少のプラスをして、簡単に紹介したいと思う。

日本の切手の中では代表的なイルカの切手は、昭和三四年に発行された名古屋開府三五〇年記念切手であろう(図18)。図は御覽の通り、金のシャチホコであるが、これについては私は外国人から質問を受けたことがある。アメリカのニューヨーク州コールド・スプリング・ハーバーに捕鯨博物館がある。そのF・P・シュミットさんは鯨の切手の蒐集家であるが、そのコレクションの中に、この切手があったのである。ただし、その説明には、英語で Golden dolphin (金色のイルカ)とだけ書いてあって、それが何を意味するか一向にわからないから、教えてくれというのであった。それはそうであろう。顔付はイルカにしてはおかしいし、体は魚であるからである。そこで名古屋城の金のシャチホコのいわれを説明し、その起源は遠くギリシャ・ローマのイルカにまで溯ることが出来ることと返事をしてやったら、納得したようである。



図18 名古屋開府350年記念切手

海がなかなかに優れている。頭は典型的なギリシャ・ローマのイルカであるが、体には斑がある。この切手は一九二九年にオランダで発行されたものであるが、その意図は、少年とイルカにまつわる数多くの話を後世に残したプリニイ(プリニイ・ザ・エルダー)を記念して発行されたものである。ギリシャではなくてオランダで発行されたという事は、ギリシャ・ローマのイルカがヨーロッパ全体に広がっていることを示すもので、その起源はローマ帝国の全盛時代にあるものと思う。ただしプリニイの書き残した原稿がラテン語で刊行されたのは中世になってからであり、その後各国語に翻訳され、英語訳が出来たのは一七世紀の初めであるから、実際に広まったのは、これ以後のことであろう。



図19 イルカに乗った少年

図20に示した切手は、一九七〇年にギリシャが発行したものである。これもイルカに乗った少年の図であるが、これは紀元前一年のモザイクをそのままデザインとして使ったものである。このモザイクは古代ギリシャの時代に栄えたデロス島に現存している。この図ではイルカに較べて少年が非常に小さい、というよりはイルカが大きいということであろう。二匹のイルカが尾部をからませているが、これはローマのポポロの広場のイルカの原型であるのかも知れない。



図21 マルタ島のイルカの切手



図20 1970年に発行されたギリシャの切手

図21に示したのはマルタ島のイルカの切手である。このイルカは倒立型ではなくて立ち上がり型である。これはローマのナヴォーナ広場の噴水に見られる型である。さらにピョートル大帝のコレクションの中にある黄金飾板の中のグリフォンにも似ている。このイルカの尾ヒレはハープそっくりである。これと同じようなイルカを扱った切手はバルバドスにもある。



図22 ノルウェーの切手

図22に示したのはノルウェーの切手である。この切手の中には三個の物体が描かれているが、上の動物がトナカイ、下が鯨又はイルカ、左の小さな物が雪靴である。これらの絵は石器時代の洞窟画である（会報7号図4参照）



図23 1957年グリーンランドが発行した“海の母”の切手

図23は一九五七年グリーンランド

ドが発行した“海の母”の切手である。海の母はエスキモーの伝説で、グリーンランドでもカナダでも同じような伝説が伝わっている。それによれば彼女は、部落には必要のない孤児の娘であった。ある部落の者は他に移住することとなったが、彼女だけを後に残すこととなった。彼女は氷の海に飛び込んで一同の後を泳いで追いかけた。そして遂に一隻のカヤックに泳ぎついて、その縁に手をかけよじ上ろうとしたが、残忍なエスキモーはその指を斧で切り落してしまった。彼女は静かに梅の底に沈んで行ったが、切り落された五本の指は海の哺乳類と化した。エスキモー人は今日でも、彼女が海の底にいて、鯨やアザラシなど、海の哺乳類を彼等のために送り出してくれていると信じている。この切手の中にはイッカクを始め、数種類の海の哺乳類が描かれている。

このようにイルカの切手も捜せば数多くあるが、ここではその全部を中介することは出来ない。ただこのような切手のデザインの中で、イルカが主役を演じているものと、ワキ役となつて、いわば余白を飾っているものとに分けるとができる。既に述べたようにへ



図25 ジブラルタルの切手



図24 カイマン島の切手



図26 イッカクの切手（ソ連）

レニズム時代の造形美術の世界では、イルカはワキ役であった。ポ

セイドンだとかトリトン、それにアフロディテのワキ役として、隅の方に控えている目立たない存在が多かった。中世に製作された海図でも、海の部分の余白を埋めるために、屢々イルカが使われている。切手の世界でもそうである。ここではその例として図24と図25を示した。

図24はカイマン島の切手であるが、この主役はあくまでも中央に描かれているジョージ五世であつて、イルカは下の方に二匹描かれているに過ぎない。図25はジブラルタルの鍵である。イルカは右隅の四角形の中に、二匹追い込められている。

切手の図案の中でイルカが主役となつているものには、なかなか優れたものがある。ここにそのいくつかを紹介しよう27図と図26に示したものはいずれもイッカクである。このイルカは長い牙を持つ



図30 ハンドウイルカの切手（セネガル）



図27 イッカクの切手（カナダ）

ているが、北氷洋の中にだけ棲んでいる。ソ連やカナダの沿岸に多いが、切手を発行した国もこの二国である。図28と図29は、共にシヤチである。前者はセネガルであり、後者は南氷洋中フランス領のクロゼットである。共にシヤチをうまく描いてあるが、特にセネガルのものはバックに、跳び上がっている一頭と白い腹を見せて水中で直立した格好の三頭を示して

いるが、これは腹側の白い班紋を示すためである。図30はハンドウイルカの切手であるが、やはりセネガルで発行されたものである。図の中にハンドウイルカの学名が書いてある。



図28 シャチの切手(セネガル)



図29 シャチの切手(クローゼット)

図31はマイルカの切手でブルガリヤで発行されたものである。図の中にマイルカの学名が書いてある。このイルカが実はギリシャ・



図31 マイルカの切手(ブルガリヤ)

ローマのイルカの原型である。このイルカが発端となって、本書の中に書いた、いろいろのお話が生まれ、絵画や彫刻の世界に取り入れられ、その過程でいろいろ変形して、遂には日本のシャチホコとなったものである。

### オポの愉快的イルカ

オポも特定のイルカの名前であるが、これはこのイルカによって一躍有名となった小さな町オポノニから来ているオポノニはニュージーランド北島の北西岸にあるホキアンガ湾に面した小さな町で、この付近には多くのマオリ族が住んでいる。オポノニの町は道が海沿いに南北に走っていて、その下は砂浜となって海に続いている。

人家はその反対側にあるが、主なものとっては、木造のホテル一軒それに郵便局、商店、ミルクバ

一ぐらいなものである。クリスマスシーズの季節になると、観光客がやって来て付近の松の木の下にテントを張ったり、キャラバンをとめた。

このなんの変哲もないオポノニの町が突如として有名になったのであるが、それは一頭のイルカのためである。一九五五年の初め頃ホキアンガの漁船の船長が、自分の船になにかがついてくるのに気がついた。最初はサメではないかと疑ったが、サメではなくてイルカであることが判明した。間もなくこのイルカはどの漁船とも顔なじみとなった。船の方でもイルカを捜すし、イルカの方も漁船の後について来た。やがて人びとは、このイルカはオールで掻いて貰ったり船の掃除ブラッシで貰ったり知ることが好きであることを知った。どの漁船も漁獲物を陸揚げした後、船を掃除するためブラッシを持っている。

やがてこのイルカは、船について岸近くまで来るようになり、夏が来て海水浴が始まると游泳中の人間にも近づくようになった。ただし最初のうちは常に一定の間隔を保って、それ以上近づくことはなかった。海水浴の人たちで賑わっている浅瀬に、イルカは静かに

潜水して、人間の群に近づいて行った。オポノニの海は澄んでいて底の砂まで見える。八フィートもある大きな黒い動物が。静かに水中を動いていく姿が岸からよく見えた。

一体、誰が最初にこのイルカを手でさわったか? これについてはトイ氏が、マオリ族のための季刊誌に次のように書いています。

私がこのイルカの話聞いたのは、大分前のことであるが、実際にイルカの話聞いたのは一九五五年の六月であった。午後六時半頃私は船で学校から帰って来た。海は小波が立っていた。突然大きく水を叩く音が聞え、海水は盛り上がった。そして海面すれすれの所を大きな魚が(最初は魚と思っ

た)、私のボート目がけて突進して来た。やられたと思ったが、その魚は十ヤードばかり手前で、水に潜ってボートの反対側に出た。

このようにしてボートの周りを何回となく行き来した。これが私がオポと会った最初である。イルカはあまり船に近づいて来て衝突しそうになるので、私は岸へと向かった。四フィートぐらいの浅瀬に来て振り返ると、約五十ヤードぐらいたち上がって、水面から三フィ

トぐらいも体を出して、こちらを見守っていたが、やがて水面に没して姿を消した。

その年の八月に私は友人と一緒に魚とりに行った。岸を出て間もなくオポがついて来た。それまでも魚とりに行く時は、いつもオポを捜したが滅多に失望させられることはなかった。この日はオポは特に愉快だった。船の周りをぐるぐると廻り、キールの下をくぐる時はその波のために持ち上げられた。私の友人はヘサキに行つて、なんとかしてオポに手をふれようとしたが遂にその目的を果した。私の知る限りでは、彼がオポに手をふれた最初の人である。

ホキアンガ湾に観光客の一ぱい集まるクリスマス(一九五五)までに、イルカは毎日オポノニに現われた。来ない時でも、これを連れてくるのは容易であった。ポンポン船がアウトボード・モーターで捜しに行けば、容易について来た。トイ氏の言葉を借りれば、彼はアウトボード・モーターの音には本当に弱かったのである。オポが来ると人々は争って砂浜を駆け下りた。ある者は写真を撮り、ある者は驚嘆し、又ある者はじっと観察した。

年を越して新年になると、イル

カ見物の客はいっその数を増した。キャンプ場は満員となり、駐車場は溢れ、ホテルは一カ月前から予約があった。ニュージーンズのこの片隅で、こんなに混んだことは初めてである。アイスクリームや軽い飲物が飛ぶように売れホテルでは大量のビールの追加注文があった。オポノニではイルカ保護のため特に委員会が作られ、次のような注意書が道端に張り出された。

「ようこそお出で下さい。ただし、われわれの愉快なイルカをいじめたり発砲したりしないで下さい。数年前にある若者が湾内を游泳中のイルカの一群に発砲してそのうちの一头を殺したことがあるからである。オポはこの時殺されたメスの子供であろうと噂されたのである。

ギリシャ・ローマ時代のイルカのように、オポが最も好んだのは子供である。大人とも戯れたが最も好きなのは子供の遊び相手となることであった。その子供の中でもおとなしい相手を選んだ。子供が大勢いる時はいつもおとなしい子供に近寄って行った。特に好きな子供がいた。十三才の少女で名前をシル・ベーカーといった。彼女はオポノニに住んでいて水泳が

得意だった。彼女は次のように書いていた。

どうしてあのイルカが特に私を好いたか、それは私が他の子供のように、イルカに手荒なことをしたり、騒いだりしなかったためだと思います。外にどんなに大勢いても、私が水の中に入って行くとイルカはきままつて私の側に来て並んで遊ぎました。ある時私はイルカが外の友だちと遊んでいる場所から、ずっと離れた遠い所で一人で遊ぎましたが、オポがいきなり私の目の前に顔を出したので、すっかり驚いたことがあります。私が海の中で脚を少し払って立っていると、後から股の間に滑り込んで私を持ち上げ、しばらく泳いで今度は私を海の中に落とすこともありました。最初のうちは私が手で触れるのを嫌っていましたが、何も害のないことがわかると、わざわざなで貰ったり、さすって貰うために身を寄せてくるようになりました。私が自分の手で小さな子供をイルカの脊中に乗せたことも度々あります。

イルカは人間になれるにつれていろいろの芸当をした。色のついたビーチ・ボールを与えると、それを空中高く投げ上げて、しかもその落ちる場所へと突進して、こ

れをクチバシで受けた。又逆に水に沈めて、四フィートも高く空中にはね上げたこともある。ビール瓶を投げてやると、海底からクチバシで拾い上げて、これを空中に抛り上げた。イルカは人間の声をききわけた。イルカの曲芸に答えて群集が声を上げると、イルカは喜んで水面上に大きくはねた。ただし近くで大人や子供が泳いでいる時は、決してはねなかった。人間と一緒にいる時はいつもおとなしかった。

ある朝のこと一つの珍事が起った。それは一隻の漁船が漁獲物を陸揚げしようとして波止場に近づいている時であった。イルカは船に近づき過ぎてプロペラに触れたのであった。イルカの体から血が流れて水を赤に染めた。イルカはその日一日姿を見せなかった。

だが、次の日の朝漁船が航海しているとき、イルカは再び姿を現わした。イルカは遠くで二回ジャンプした。自分の健在を示すかのようであった。そして舷側に来て頭を出したが、そこには二条の傷痕が刻まれていた。一同はイルカがわざわざそれを見せに来たものと解釈した。

このような事件もあったが、イルカはその後も元気で人間と戯れ

た。ニュージーンランドでは、このイルカもペロラス・ジャックの場

合同と同じように、法律や規則で保護すべきだという意見が強まった。ペロラス・ジャックの場合にはイルカの種類が問題であったが、オポの場合はこの問題はなかった。このイルカはハンドウイルカであつて、日本の水族館でも一番の芸達者のイルカである。写真も多く撮られているが、ハンドウイルカの特徴がよく撮られている。政府も準備を進めて、一九五六年三月初旬に、数日後に規則が公布されることが発表になった。この規則は、今後五年間ホキアンガ湾でイルカを獲ることを禁止すること、およびこれを犯した者は五〇ポンド以下の罰金に処することであった。この規則は一九五六年三月八日に公布され、同日の午後十二時から施行されることとなっていた。

ところがここに一大事件が発生したのである。オポは三月八日の前日までは海水浴客と一緒に遊んで遊んでいた。ところがこの規則の公布された三月八日には、いつも来る場所に向い姿を見せなかった。その日の朝一隻の漁船がオポの姿を見かけたが、写真を撮るために、午後捜しに行った時は全

然姿を見せなかった。

このようなことは今まで度々あったので、この日は誰も心配しなかったが、次の日になって四隻の船が早朝からくまなく捜したが無駄だった。ところがその日の午後オポは死体となって発見されたのである。それもマオリ族の一人が、干潮時の磯に貝とりに行つて、偶然に発見したのである。場所はオポノニから約五マイル離れた岩礁地帯で、左右から暗礁が突き出て、潮が引くとプールとなる。その中央に割れ目があった。オポはこの割れ目に首を突っ込んで死んでいたのである。体にはこの割れ目から逃れようとしてもがいた掻き傷が一面に残っていたという。

その日の夕暮時、オポは小さなボートに乗せられて、いつも遊んだ場所に運ばれて来た。オポノニの人たちはこれを受け取って、その死骸を記念館の近くに葬って、その墓を花で埋めた。

この話はここで止めた方がロマンティックでよいのであるが、現実には必ずしもそうではないようである。オポの死因に関してはガスキン(一九七二)は、沿岸で密漁のため使用された、ダイナマイトの爆発によるものであることは明

らかである。書いてある。そうであらば、餌にしようといひかけた魚と一緒に一瞬にしてやられたこととなる。オボは人間の手から餌を貰うことをしなかつたというから、いつも自分で餌をとっていたのであるが、それが凶らずも人間と競合したのであった。しかもダイナマイトの使用は禁止されていたから、敢て密漁を行なつた、いわば悪人と競合し、そのギセイとなつたのであらう。

おわりに

沼にはボラがたくさんいるが、一定の時期になると、このボラが大群を作つて海に下る。この時漁業者は「ししっ鼻」と大声でイルカを呼ぶ。この声を聞くとイルカは直ちに集まつて、魚の群を沿岸の浅瀬へと追い返す。そこには漁業者が網を張つて待つていて一網打尽に取り上げてしまふ。イルカは分相応の分け前を貰うという話である。

そのトルコもイルカを殺してけしからんと批判されている。海の中の生態系は、そこに棲む生物の集団としての力関係の上に成り立っている。その生物を人間が利用する場合は、人間も含めていかにバランスをとるかが問題である。人間も生きて行くためには魚やイカをとらなければならぬ。イルカも同様である。お互に数が少なくて余猶もある場合は、相互の協力関係も生まれるが、一

定限度を超して多くなれば、どちらかがある程度引き込まなければならぬであらう。イルカに言わせれば、それは人間が無制限に増え過ぎたからだ、お前の方が引つ込めと言ふかも知れないが、こちらは趣旨にはある程度賛成出来ても、現実の問題としてOKと言えない。この際当分の間は、残念ながらイルカ君に少し遠慮して貰うより外に手はない。

学士院会員ほどの希少価値があつた。それで布教の成果の一端を現わす為には獲得した信者の名を載せているのであらう。鳩山秀夫(法)佐伯好郎(文)などという名が見える。前者は前総理大臣鳩山一郎の父君、後者は我が国の景教研究の鼻祖である。その内に守屋恒三郎(文)という名に出会つたときには驚いた。守屋校長がクリスチャンであることは静中在学中より知つてはいたが、ここでその名に出会ふとは。その上、聖公会の信徒であるなどは、全く夢想だにしなかつたからである。今にして守屋先生の入信の動機など知るべくもない。令息の獅郎氏にお伺いすれば、あるいは判るかも知れないが。

この本の原稿を書きあげた後で突如として、彦岐のイルカ騒が持ちあがつた。彦岐の漁民が、イルカは自分たちの大事な魚を横取りしてしまふ、これでは漁民は生活できないと、一〇〇〇頭以上のイルカを殺して海に捨てたのであつた。このことが広く世界に報道されたため、英国やアメリカから、イルカのような可愛らしくて知能の高い動物を殺すとは何事だと抗議が殺到した。この本には書かなかつたが、イルカが人間の漁業者に協力して、魚をたくさんとらせる話も伝わっている。これもブリニイが書き残しているもので、場所は同じく地中海である。ローヌ河の近くに大きな沼がある。この

沼にはボラがたくさんいるが、一定の時期になると、このボラが大群を作つて海に下る。この時漁業者は「ししっ鼻」と大声でイルカを呼ぶ。この声を聞くとイルカは直ちに集まつて、魚の群を沿岸の浅瀬へと追い返す。そこには漁業者が網を張つて待つていて一網打尽に取り上げてしまふ。イルカは分相応の分け前を貰うという話である。

このように話を子供の時から聞いたり読んだりして育つた人たちは、日本人がイルカを殺したという話をきけば、日本人は野蛮な国民であると考えるかも知れないが同じ地中海でも二〇〇〇年前と今日では事情が違ふのである。今日地中海沿岸の漁民はイルカに悩まされているのである。もう大分前のことであるがFAO(国連の食糧及び農業機構・本部はローマにある)が地中海沿岸の各国に対して、イルカの被害についてアンケート調査をしたことがある。各国から被害の実態について報告があつた。魚を横取りしてしまふ、漁具を壊すというのであつた。ただトルコではたいした被害はなかつた。それはトルコは以前からイルカ漁業を行なつていて、いわばイルカの数を間引いていたからであ

ここに一冊の本がある。数日前に散歩の途に立寄つた古書肆で購つたものである。本の名は「日本聖公会史」、著者は元田作之進、明治四十三年刊。買価二千円。

日本聖公会は一八五九年(安政六年)にアメリカ聖公会より派遣されたウイリアムス主教によって創立された、わが国に於けるプロテスタント開教の始まりである。主教は布教の傍ら多くの学校を創立して教育面でも多くの功績を

守屋恒三郎先生

文 市 賛

ここに一冊の本がある。数日前に散歩の途に立寄つた古書肆で購つたものである。本の名は「日本聖公会史」、著者は元田作之進、明治四十三年刊。買価二千円。

日本聖公会は一八五九年(安政六年)にアメリカ聖公会より派遣されたウイリアムス主教によって創立された、わが国に於けるプロテスタント開教の始まりである。主教は布教の傍ら多くの学校を創立して教育面でも多くの功績を

この本に書かなかつたが、イルカが人間の漁業者に協力して、魚をたくさんとらせる話も伝わっている。これもブリニイが書き残しているもので、場所は同じく地中海である。ローヌ河の近くに大きな沼がある。この

この本に書かなかつたが、イルカが人間の漁業者に協力して、魚をたくさんとらせる話も伝わっている。これもブリニイが書き残しているもので、場所は同じく地中海である。ローヌ河の近くに大きな沼がある。この

ここに一冊の本がある。数日前に散歩の途に立寄つた古書肆で購つたものである。本の名は「日本聖公会史」、著者は元田作之進、明治四十三年刊。買価二千円。

日本聖公会は一八五九年(安政六年)にアメリカ聖公会より派遣されたウイリアムス主教によって創立された、わが国に於けるプロテスタント開教の始まりである。主教は布教の傍ら多くの学校を創立して教育面でも多くの功績を

日本聖公会は一八五九年(安政六年)にアメリカ聖公会より派遣されたウイリアムス主教によって創立された、わが国に於けるプロテスタント開教の始まりである。主教は布教の傍ら多くの学校を創立して教育面でも多くの功績を

に対し守屋校長は長身色白イギリ  
ス風の紳士である。当時の常用語  
で強いて言えば「蚤から」と「ハ  
イカラ」である。新旧両校長のあ  
まりに鮮かな対照は、少年の目に  
真に強烈な印象を与えた。

守屋校長は着任早々にして二つ  
のことを改められた。一つはゲー  
トルの着用をやめたことである。  
それまで中学生は登校から下校ま  
で常にゲートルを着ける規則であ  
った。ゲートル無しの静商生徒に  
対して、静中学生徒のゲートル姿は  
目立って見えた。ゲートルと言っ  
ても巻きゲートルではない、ホッ  
クに紐をからげてゆくのである。  
これが体操のときだけの着用とな  
った。当座はなんだか足が軽くな  
ったような気分がしたので覚えて  
いる。二つには教室の鍵の廃止で  
ある。授業の始まりを告げるベル  
が鳴ると生徒は教室前の廊下に整  
列する。担当時間の先生が出席簿  
を抱え巨きな鍵を持参して来ら  
れ、派手な音を立てて教室の前後  
のドアを鍵で開けられる。始めて  
生徒は教室に入って各自の机を前  
に起立する。終了後も生徒が全部  
退出すると始めて先生が鍵でドア  
を閉めて教員室へ戻られる。すべ  
れの授業がそれである。この鍵に  
よる時間毎の教室の開閉が止めら

れた。もとより休憩時間中に勝手  
に教室へ出入りするのが自由にな  
ったわけではないが、いちいち教  
室に鍵をかけることは止められ  
た。ゲートル着用の廃止、教室に  
鍵をかけることの廃止。少年時代  
の自分には、これに踏み切った守  
屋校長の心の裡を忖度する能力な  
どある筈もない。今にして思えば  
二つとも静中の長期に亘った規則  
・慣習であつたらう。あるいは創  
立以来かも知れない。些事と言  
勿れ。それを実行するのは余程の  
決心英断が必要であつたらう。

守屋校長は静中赴任の前は多分  
東京日比谷の図書館長をしておら  
れたとか。着任の際の新聞記者の  
質問に対して（静岡新報か民友新  
聞、当時の静岡の地方新聞はこの  
二紙）あまり栄転でも無いので云  
々、というような言があつて、い  
ささか軽い反感を有った記憶があ  
る。江崎校長の退任の挨拶中に、  
「今度みえる新校長は、大へん新  
しいお考えをおもちの方で」とい  
うような言があつたことも憶えて  
いる。守屋先生がどのような経緯  
で保守性の強い地方県立中学の校  
長に任じられたかは知るべくもな  
い。勝手な想像を許していただけ  
れば、なんとなく当時の大正デモ  
クラシーの風潮と無縁では無かつ

たような気がしてならない。在任  
中、校長はキリスト教めいた話な  
ど一切されたことはなかった。た  
だ、救世軍の山室軍平さんの講演  
があつたことが僅かに、校長の信  
仰の現われの一端であつたかも知  
れない。しかし、数学の大家林鶴  
一先生（老生を悩ました数学の教  
科書の作者）の講演もあつたので  
これを先生の信仰と結びつけるの  
は躊躇されるけれども。

守屋校長は数年にして静中を去  
られた。その後、なんでも東京築  
地の病院に入院中に関東大震災に  
遭遇せられて九死に一生を得られ  
たとか風の便りに伝わってはきた  
が、不肖の弟子はその後の消息は  
存在しない。  
わたしは今ここで守屋校長の変  
革の良否を論ろう気持ちは無い。  
また江崎・守屋両校長の教育者と  
しての人格・手腕などの比較など  
潜越烏滸しいことを試みようとな  
る不遜な心は毛頭有っていない。  
これは誤解されると、罪万死に当  
るので是非とも明らかにしておか  
ねばならぬ。両校長とも真に立派  
な教育者であつたことは、純な少  
年の胸裡に強烈な印象として残っ  
ている。少年時代をこの二人の名  
校長の下に過した幸せは、今だに  
忘れることはできない。

駄文を草する気になつたのは、  
前回の鷗外全集で目に触れた陸軍  
少尉小林武の活字に刺戟されて、  
たわいない思い出を記した（第六  
号）のと同じく、これまた購った  
古本「日本聖公会史」で守屋恒三  
郎の活字に出会つたからに過ぎな  
い。老化すると往昔が無闇に懐し  
い。小林先生に続いて守屋校長、  
さて次ぎは……。編集の諸兄よ、  
御安心あれ。「静中教師列伝」作  
成など、大それた企てはもつてお  
りませんから。

母校の人事異動

昭和五十二年より四年間、母校  
々長を勤められた吉川校長(55期)  
が四月一日、静岡県教育長に栄転  
され、代つて県立中央図書館長、  
渡辺悦郎氏が校長になられた。  
また四十二年より十八年間母校  
に勤務され、四十七年より同窓会  
事務局長として活躍された鈴木岐  
夫氏(53期)は退職され、杉山茂  
樹氏(53期)が後任となられた。

第十回ゴルフ大会

- 日時 五月十五日(金)
- 場所 東名カントリークラブ
- 優勝 望月祐言(期)
- 準優勝 浅井幹夫(期)
- 第三位 渡辺宏一(期)
- 参加総数 十七名

総合広告代理店

## 株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝比奈 正 三 (67回)

東京都中央区銀座6-11-20 黒親ビル 3階

TEL 03-572-2431 (代表)

## 新東京印刷株式会社

代表取締役 梶 原 由 三 (67回)

東京都中央区八丁堀 2-1-7  
神綱ビル

TEL 03-553-8981 (代表)



## 各期便り

### 四二回

「頑張らなくっちゃ」

よんに一会員よ!

今はどうか知らないが、ずっと以前信州の名門松本深志高校の学要覧を拝見したことがある。学校標語に、「大道を闊歩せよ」と「弱音を吐くな」の二つが有った。さすが峻嶒壮大な北アルプスや激烈極まりない寒風水雪に育まれた信州人の気骨と氣迫を遺憾なく、しかも端的に具体的に表現したものだ。とえらく胸を打った。我々は「岳南健児」を自負し、常にこれが自分を支え、推進させてくれる根源になっているのであるが、秀麗富士をはじめとして山紫水明。氣候温暖、物資豊富、交通至便、人情敦厚誠に言うところのない環境に包まれて生い育ったことは正に天恵と言うべきである。しかし物分かりよく聡明で人柄のよい岳南健児に何か物足りない一面が有りとなれば、上記信州人の持つ敵しい気骨・氣迫ではなからうか。これは我々のみならず母校静岡高校

訓育の努力目標の一つに是非入れてもらいたい。

ところで、出だしを大上段に構えてしまつて、竜頭蛇尾にならねばいいかと恐れているが、岳南健児の中でも、総体的に見て実によくまとまり、「天下の静岡俺で持つ」の氣概に燃えているのが「よんに一會」の面々である。と自他共に許して来た。ところが、ここへ来て少しガタが来はじめた感の有るは淋しい限りである。古稀を過ぎたという年齢の故もあらうが四十名近くの関東同窓会員も一人減り二人減り、けが・故障・老化続出で先が思いやられる。今や、世を挙げて量より質の時代であるが、この場合質に問題が無いとすればやはり量が物を言う。親愛なるよんに一会員よ、「第二世代」つまり若き世代への交替は当然のことながら、ただ氣骨だけは永遠に誇らしく持ち続けて行こうではないか。少し位言う所が出て来ても、絶対に弱音を吐いてはいけない。七十になったら「俺の青春はこれからだと思え、八十になつたら俺の人生はこれからが花だ」と思ふべきである。「あんなに氣迫を吐いていたがお氣の毒に！」などと言われない様にしようじゃないか。竜爪山の木枯や青葉が岡の夏の日心身鍛えた大丈夫だつた筈ではないか。健康にはくれぐれも留意し、傷病者は十分静養にとめ——とは言つても自然の老化には勝てないが、氣骨・氣迫だけはますます旺盛に——決して老の一徹とか頑冥固陋で老醜をさらけ出すのでなく、聡明で物分かりがよく、氣骨もあり、ユーモアも解し、さわやかで魅力的な岳南健児としてこれからの青春を存分に楽しもうではないか。かつて「兄弟は皆勇敢だつた」という外国映画が有つたが、「先輩は皆すばらしかつたと言われるよう、よんに一会員よ! 頑張らなくっちゃ!」

(村松 直)

### 四三回

自然を考える

先日、所用があつて、柏崎に出張のため車中の人となつたとき、新潟県に入ると、今冬の豪雪の名残りがあつて、一面の銀世界のもに、いまだにスキーを楽しんでいる姿が車窓から見え、その一週間後に、會議出席のため、宮崎を

訪れたところ、海岸の松林に蟬の合唱を聞き、一瞬自分の耳を疑いしぱらくたつたずんで考えこんでしまった。

梅と桜に桃の花を、殆んど同時に、相ついで見たことはあつたが、冬と夏をこのように近く経験したことはなく、更に南では、或は泳いでいるのではないかと想像し、北から南に長い我が国は、桜前線や蜜蜂が北上する四季の変化を楽しめるまことに恵まれた国であり、人間がいくら費用をかけても作り得ない自然は大切にしなければならぬとつくづく感ずるのである。

最近の海岸線は、コンクリートによつて囲まれ、樹令を重ねた緑の木は伐採され、赤い山肌を見るべき、コンクリートによつて作られる近代文化と自然との調和について最善の努力が払われなければならないと思ふ。

時には大きな台風がきて、瀬戸内海に大波をたてなければ、きれいなにはならないし、このような自然現象というか、自然の摂理というものは、人間生活を維持するうえに、理にかなつているのであつて、自然にさからうことは決してない結果はなく、季節はづれの野菜や果物も度が過ぎると如何かと

思う。欧州の人が品種改良されたリンゴに、「寿」の字をいれたものをおどろきの目をもつて見るようであるが、欧州の野菜も果物も自然のもので、質実な生活には、頭がさがる思いがするのである。

欧州の話がでたので更に一つ加えると、欧州では国境が陸つづきであり、大氣汚染があれば隣国に影響を及ぼすことになり、四方海にかこまれていられる我が国以上に氣づかいをしているところが明らかであるが、同時に社会発展のため忍従すべきところも亦心得ているように見られた。ストックホルムの人も自分の国の空は、きれいだが他国から悪いものが飛んでくるのだと笑つていたことを思い出すのである。

このように空と陸と海を自然のまま保全することは、文化と人口増によつて困難さが増加することは必至と見なければならぬが、極力調和を図り、自然を後世に残したいと思ふ。

都会の子供が、おたまじゃくしをビンの中に入れていられるのは、何ともいぢらしく、校庭もコンクリートではなく、土の上で遊ばせてやりたいものと念願してやまないものである。

(北里良夫)



第八〇回大会

第八〇回という記念すべき集りを幹事のお世話で、赤沢の清沢山荘一泊のスケジュールで去る十一月二十二・三日に開いた。

当日は午後二時に両替町の三笑



た。地元の永井景君の出迎えを受けてその名の通り清流を吊橋で渡って清沢山荘に入った。例によって持参の塩瀬の小饅頭と地元産の銘茶の味は谷間の涼風と相俟って、とても爽やかであった。

「市川の栄ちゃんか」とかつての城内東小学校以来のクラスメートという事で、小学校時代の思い出が浮んで感慨無量の様子であった。母屋も離れも当夜は四三会の借

享の大石貞治君の所に集合した。行楽シーズンの連休で残念乍ら参加者は十五名と少数となった。タクシーに分乗して市内を抜けて、安西橋を渡って藁科川に沿って、約一時間ばかりで会場へ着い

た。名古屋から初参加の市川栄一郎君が元気で出席されたので、今大会も少人数ではあったがすこぶる盛り上った集りであった。大阪から少し遅れて到着した平山桂君が部屋に入ってくるや否や

り切りで、心尽くしの山菜料理や鮎料理、名物鍋料理の接待に、折柄の時雨と清流の水音に晩秋の一夜を旧友と語りあつて時の過ぎるのも忘れた。殆んどが静岡の生れでも藁科川

上 第30回大会 下 東京43回例会

の上流は始めてで、この道は大井川上流の井川ダムまで行けると聞いて静岡の奥座敷の秘境の感を深くした。

夜来の雨もすっかり上つて、上気度で迎えた朝も古稀ともなれば早起きで朝風呂でくつろぐもの、溪流に沿って散策するもの等々。

朝のミーティングも爽やかな朝風に酒盃もすすんで、まずまず健康で数年は若返った模様である。

名残りは尽きず次の再会を約して、女将からの心づくしの銘茶をいただき、永井君や山荘の皆さんに送られて、タクシーに分乗して解散した。出席者は次の通りである。(写真参照)

- 市川栄一郎・磯谷幸一郎・大石貞治・加藤金治・国友正一・小杉一・高須彰・清水正照・永井景・西沢純三・平山桂・堀田利郎・松永清平・八木友治・矢部孝

東京四三会例会

秋の叙熱で今年はわがクラスより在京の長戸寛美君が勲一等瑞宝章を授賞された。祝賀と稀寿を兼ねて柳沢保雄君のお世話で十一月二十五日昼席で興銀関係の六本木IBクラブで例会を開いた。松下篤三君が遠路の所を初参加で元気な姿を現わしてくれた。出席者は

建築設計・監理

株式会社 **ユニオン設計センター**

代表取締役 成岡英彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル

TEL 03-363-8604 (代表)

同窓会コンペなど、ご相談ください。

**伊豆大仁カントリークラブ**  
**伊豆大仁開発株式会社**

代表取締役 石橋正秋  
取締役支配人 安田正弥 (66回)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1

TEL 0558-76-2401 (代表)

十四名であった。

一月二十日、例によって田町サンハイツに集り新年会を開いた。差入れのブドウ酒とビールで乾盃した。久しぶりに井沢源治君が出席して座を賑やかなものにしてくれた。出席者十四名(写真参照)

前列左より小河直人・芹沢正憲・小川幹夫・井沢源治・島田富治雄・三好由三郎・西沢純三・池谷三郎・北里良夫。後列左より清水正照・吉江誠一・長戸寛美・今井志郎(以上)

四月二十一年今年二度目の例会を田町サンハイツの近隣「ミクニビル五階」に移して開いた。今までの火曜日正午の都合の悪い方々も多いので今回は曜日を換えて八月二十六日(水)正午と決めた。桜花の季節で井沢君自慢の日本酒の差入れで楽しい午後を過ごすことができた。出席者十五名であったが次回は二十名位は集つまるものとおもう。

四八回

このところ我等四八期のたよりも二回程御無沙汰して終った。

最近の情報を二・三報告する

昨年十一月八日静岡昭和町(旧江川町)喜楽での四八会については、佐塚君が静岡高同窓会報にくわしく報告してあるので、ご覧願いたい。

三月二十八日千葉県野田の紫カントリでゴルフコンペ開催。参加者、飯田、太田、日比野、福永、松岡、寺尾と小生それに太田君が美人を同伴してコンペに花を添えた。優賞は飯田君で皆チヨコレートをこっそり提供。

四月二十四日静岡で 新聞六炳君の七回忌が長沼の少林寺であり東京からは加藤、寺尾、日比野三君と小生が伺った。

このたび、関東支部の名簿書き替えのため、同期の諸君一人一人に電話で確認したが、それぞれ異なった感触で、同窓の諸君の消息を知るうえで非常に役にたった。

最近静岡の佐塚幹事から同窓会の維持費の拠出依頼が各人に来ていと思ひますが、是非協力願いたい。(原崎進一)

五三回

中学生時代、学期試験前日の夜が更けるにつれて「この世から、時間というものが無くなったら明日の試験も無くなるであろう」という公理に逆らう空想に取りつかれたことがあった。しかし、無情にも時間は絶えることなく、その後も時間の流れ、試験より苛酷な社会の洗礼を受けた。かくして、卒業以来40有余年を経たので53期生はこの3月で全員が還暦という人生の区切りを超えることとなった。従って、定年を迎え第二の人生に踏み出した者も多いようである。ここに関東支部関連の方々について入手した消息を紹介する。(イロハ順)

○月見里得知郎君 キャンソノカメラ(株)を定年退職され、現在、雌伏中とのこと。将来の抱負を実現されて雄飛されんことを望みます。

○山崎(旧姓諫山)誠君 東京三洋電機(株)を定年退職され、現在九州に転居されました。今後の御発展を祈ります。

○松前新太郎君 30年にわたり勤務された法務省を勧奨退職され現在、埼玉県に転居されて第2の人生を自宅近くの日東化成(株)で送られるとのことです。

○益田貞三君 40年間勤務された日立熱器具(株)を停年退職され、引続き同社に嘱託として勤務されているそうです。

○三枝正裕君 東大教授東大病院長を勇退され、第二の人生は、国立中野病院長として激務に当られるそうです。健康に留意されて活躍されるよう祈ります。

○佐野圭司君 東大教授を勇退され、今後は帝京医大教授として後進の教育に当られるとのこと。日本脳外科学会の仕事もあること故、健康に留意されて勤められんことを祈ります。

○以上、紹介文を記している小生(徳永悠久)も約30年にわたる防衛庁生活に終止符をうち、第2の人生は、日本電子機器(株)で勤務することになり、往復で6時間の通勤時間を費す生活になりました。

夏目漱石は、草枕の書き出しに知情意の調和を述べている。私は格調高く調和のとれた知情意が人間の大きさのパラメータとなるものと考えている。そして還暦という人生の区切りに当り、若い時と同様に、知と意を以て我武者羅に前進するだけでなく、我が人生に情が欠けていなかったかと反省して、人間完成にとめるべき年代に入つたものと考えている。(徳永悠久)

川 根 銘 茶

三保乃園 山 菅 茶 店

山 菅 章 雄 (53回)  
(村 松 正 七)

東京都港区南青山1-20-6  
TEL 03-403-5760

話題のスペース  
(明治通りと大久保通りの交差点)

レストラン・モ ア

小人数から30名様くらいまでクラス会等に最適です

土屋 晃 康 (67回陸上)

TEL 03-208-2931・204-1251  
東京都新宿区大久保2-1-3

身的介護と宗像君の絶大な支援に  
よって徐々に快方に向っている様  
です。三月頃一寸脳軟化症の様な  
状態になって心配された由である  
が、現在は両手共頭の辺りまで挙  
げられるし、記憶もはっきりして  
いる様に見受けられました。

何にしても、長期戦の事ではあ  
るし、精神的なものが一番利くだ  
らうと思はれますので、折々見舞  
ってあげたいものです。

入院先は次の通りです。

日本医大第一病院 B 四一九号

(月見里記)

五四回

静岡市内の小学校から静中へ学  
んだ者は概してノンビリした点で  
共通していたが、汽神通や出身地  
が静中に遠いために静岡へ下宿し  
ていた仲間には向学の意気に燃え  
て来たとか郷土の与望を担ってと  
かエリートが多かったようだ

中でも下宿組には川根の中村武  
君や富士宮の佐野圭司・望月逸夫  
の両君など、学もしならずんば死  
すとも帰らじの気概があった。

ところが、その中に校友会の副  
委員長であり、長居委員長が陸士  
へ入学のあとの期間、委員長をつ  
とめた篠原範平君が伊豆の湯ヶ島  
出身ということを知った。それは

先日、この会報に近況を載せたい  
からと彼に電話したことから始ま  
った。

五月十日の日曜日の朝、国道二  
四六号を彼の勤めるフジタ工業藤



ヶ丘寮へと車を駆った。

地理不案内で大分行き過ぎたが  
途中で道を聞きながら、約束の時  
間を少し過ぎて到着した。白亜の  
建物の脇にある空地へ車を止めた

所へ、静中時代と変らぬ篠原君が  
出て来て寮へ案内してくれた。独  
身寮とのことであるが、素晴らしい  
建物で、高級ホテルといった感じ  
だ。会社の研修所を兼ねていると  
のこと、さればこそと思った。

昔々ハンベイさんはお人好し

というカッドウがあったことを覚  
えている。中学二、三年頃のこと  
だったか、皆で篠原君をハンベイ  
さんと呼んでからかったが、その  
通りに誰にでも好かれる人柄であ  
った。在学中、三上君等とから  
い、静中改革論をぶってスト指導  
(未遂に終わったが)したそうだが  
彼のどこにそんな情熱があるのか  
と思われるくらい、柔和なことで  
有名であった。その面影は今でも  
少しも失われてはいない。

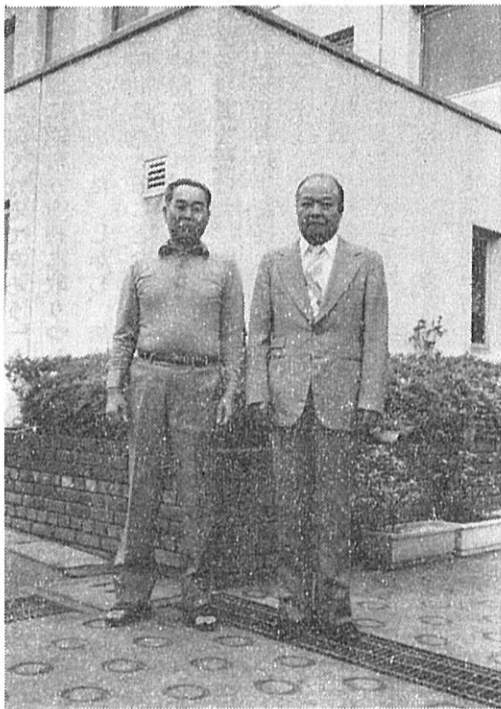
父君は湯ヶ島で材木のお仕事を

渡世にしておられたが、満された  
かった向学の心を我子に託して、  
彼の姉は静岡の女子師範へ、兄は  
駿商、彼と舎弟は静中へと、今で  
言えば越境入学したという訳。

姉の下宿が女子師範の近くの銭

座だったので、そのあとへ住んだ  
ため、佐野(金刺)君とも親しく  
なり、誘われて剣道部へ入ったの  
だそう。剣道部と言えは平川、  
鈴木(春)、保住、馬場君等がい  
たことを覚えている。篠原君は剣  
道は抜群、学業は優秀、彼のよう  
な者を称して文武両道の達人と言  
うのだろう。

海兵の受験は、大事な夏の期間  
剣道大会に備えての猛練習と校友  
会の仕事で受験勉強が充分できな



フジタ工業藤ヶ丘寮前にて

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科  
人間ドック

ねつ かん  
**熱 函 病 院**

院長 小坂 博 (67回)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

**日本レーベル印刷株式会社**

代表取締役 岩井平一郎 (57回)

本社 静岡市国吉田645

TEL 0542 (62) 1111 (代)

東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル

TEL 03 (272) 4651 (代)

くて翌年入学。

海兵に四年から大村、五年から青木(秀)・梅村の三君が入った。

今度の戦争で皆戦死してしまつて篠原君だけが生き残つたのが以前から不思議に思つていたが、話を聞いてる内に「事實は小説よりも奇なり」の感を深くした。

戦時中、印度洋艦隊に属し、シソガポールを基地として印度洋で後、大湊基地に移りアリニューシャ

ン周辺で作戦に従事していたが、戦争末期、硫黄島作戦に参加せんと重巡「多摩」に乗って進撃中、父島附近で玉砕報に接して呉へ引返した。

その後、呉で駆逐艦訓練部隊に属して教育指導に當っていたが、レイテ作戦のオトリになるため再度「多摩」で出撃直前、最新鋭重巡の「酒匂」が佐世保で進水するので、これの分隊長を命ぜられて下艦したが、出撃していたらまさしくオトリになって命を失うところだった。

その後は呉で重巡の訓練に励んでいたが、日本海軍最後の時、かの「大和」出撃の供廻りとして、「矢矧」と共に出港したものの、

下関で酒匂のみ本土決戦に備えて舞鶴へ引返し、以後、小浜湾で敵の本土上陸を待つ内、終戦になつ

た次第。

人間の運命なんて全くわからないもんだと、自分が満洲で死線を幾度か乗り越えて、遂に日本の土を踏んだことを思い起こして感無量であった。

戦後、その酒匂で、ニューギニア・ボルネオ・台湾等の在外の生き残りを幾度となく往復して内地へ送り届け、二十一年二月十一日やっと復員した。

復員後は、材木屋、山師の手伝い、薪炭の高いなど転々、三十年に海兵の友人のすすめで海上自衛隊へ入る。自衛隊では海將補までなり、護衛隊司令を勤めた。

自衛隊時代の精神教育に卓越した識見を買われ、退職後、請われてフジタ工業に入り六年を経た。二男をお持ちで、長男は技工士次男は大船で造船を営んでいる。

話のあと、昼食をご馳走になり記念に寮の前で写真を撮った。以上、ハンペイさんは依然として健在で、岳南健児の精神で頑張っていることを諸兄にお伝えして筆をおく。(庵原悌次)

五五回

いつの頃かさだかではないが三、四年も前にならうか。関東ブロック地方労働委員会の会議が静

岡県伊東市で開かれたことがあった。冒頭、開催県の山本知事(先輩)の挨拶であったが、知事不在のため、当事副知事の諏訪先生(ガマグチ)が代読された。私はおどろいた。先生が副知事とはそれまで寡聞にして知らなかった。

挨拶を終えて退出される先生を追って廊下へ出た。「先生、ぼくです」立ち止って振り返る先生は大きな口をさらに大きくして「やあ、やっぱり君か」とニコニコされた。当日の出席者名簿の中に私の名を見出されたであらうが、四〇年前の英語の出来ない劣等生がまさかその日の会議にいるはずがないと思われたであらうか。多忙な副知事は、ほんの二、三分の立話しかゆるされなかった。

静中時代、私はボールばかり蹴って低空飛行をつづけた。今でいえば「落こぼれ」であった。英作文は「丁」(チョーチン)、因数分解がわからなくて三上先生(チョーセン)に立たされた。プーカンに竹刀でなぐられてコブができた経験もある。そんな次第で昭和十五年卒業以来先生方にも同級生諸君にも御無沙汰の限りをつくして今日に至った。この場所をかりて深謝する次第である。しかし、そのような少年時代の私では

あったが、いや、そうであったがために、今にして思えば、私をとりまく同級生、先輩、後輩、すべて何かの点で私よりすぐれた友達であった。サッカー仲間鈴木茂、森実、矢沢六雄、若槻、田口等々。放課後や休日に旧静高グラウンドで遊んだ一級上の梅村さん。彼は海兵へ入って帰らぬ人となつたと聞く。大学でも一級上の友広さん。一級下の北村甫、彼は東京外語大のアジア・アフリカ語学研究所にいと風の便りにきいたことがある。同じく一級下の西脇光夫はいま山梨県にいる。これらの人々を含めて、多くの岳南健児に絶えて久しく逢つたことがない。

たまに静岡へ行った時に、長谷通りへ車をとばして、「チェリー」(山本礼司)を訪れ、多少の情報を得て帰るのがいいところである。静中・静高百年祭の時、吉川校長、渥美教頭に逢えたのは、近年このうえなくうれしかった。最近、やたらと旧友に逢いたいと思う。学校帰りに、長谷通りの「一富士」で水あずきを食べて細矢先生にみつかった時の仲間逢いたい。死期が近いのかもしれない。

そんな日々にも、たまには感激の一瞬もないではない。これも三、四年前にならうか。全国労働

あったが、いや、そうであったがために、今にして思えば、私をとりまく同級生、先輩、後輩、すべて何かの点で私よりすぐれた友達であった。サッカー仲間鈴木茂、森実、矢沢六雄、若槻、田口等々。放課後や休日に旧静高グラウンドで遊んだ一級上の梅村さん。彼は海兵へ入って帰らぬ人となつたと聞く。大学でも一級上の友広さん。一級下の北村甫、彼は東京外語大のアジア・アフリカ語学研究所にいと風の便りにきいたことがある。同じく一級下の西脇光夫はいま山梨県にいる。これらの人々を含めて、多くの岳南健児に絶えて久しく逢つたことがない。

本田技研工業株式会社

川島 喜八郎 (52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8  
TEL (499) 0111 (大代表)

新日本証券株式会社

取締役社長 大石 巖 (53回)

東京都中央区日本橋1-17-10  
TEL (273) 2311 (大代表)

委員会連絡協議会が東京であった時、東京都の地方労働委員会事務局長の山本武(ブーサン)、静岡県地労委の石川(今村)三元の両君に逢った。山本君は今では退職されたが、三元は、その後同じ全

五六回

であるが、最近、これらの一切をやめて静岡へ帰りたい思いが切である。(飯塚一郎)

なかまの消息

清水逸郎君が、その持前のおっとりとした顔をテレビの画面にみせた。この冬、日本海側が異常な豪雪に見舞われていた頃、気象庁の子報会議の様子が放映されたときである。

それからしばらくして、原田昇左右君が国会で颯爽と議場に赴くところを、やはりテレビで見た。

いずれもNHK午後七時のニュースの時間。ああ、あの秀才たち元氣だな、とうれしかった。

この両君をはじめ、中央にあって活躍している友人たちについては、新聞やテレビという媒体を通じて、あるいは又、親しく実物(失敬)にも会うことができ、その消息がよく分っている。その一方で

派手ではないが、それぞれの地域社会に於て、なくてはならぬ人材として業績を挙げつつある友人たちもまた多い。そういう人たちのことは、仲々知る機会がない。そんなことを思いながら、古い卒業

写真を取り出してみた。それはもう、全体が黄ばみ、隅

他数々の委員で目のまわる程多忙

のほうなどは、うすぼけて消えかかっているしるものである。木造ながら、どっしりとした、あの風格のある校舎のかたわら、足場を高く組み上げ、それにずらりと同期生たちがならんでいる。

私は前から四列目、先生がたのすくうしろ、川口金利君と漆畑長一君の間にはさまってうつつている。いまはどうか知らないが、その頃の静中では、こんな簡素な卒業写真しかとらなかったのだ。

最上段には、なんとまあ、そこにふさわしい、勇ましい連中ばかりであろう。おかしうて笑いがこみ上げてくる。満州でひとあばれしてきた快男児、兵永哲夫君や木村健二君、ヒョーキ野郎で、何度も死線を超えてきたハゲタツ(ゆ

るせ)こと萩原達雄君、といった顔ぶれ。私もあんな高いところに上って見たかった。

物換り星移って四十年、往時の小少、今は老大、高歌一曲、明鏡を掩った古人の歎きを、ようやく思い知る年配となった。

いささか感傷にひたりながら、なつかしい、ひとりひとりの顔、顔、に見入る。この写真、実は右

上隅がちぎれて無い。そこには撮影当日、欠席した何人か(たしか藤本哲郎君、小沢行雄君らではな

かったか?)が組込まれていた筈で申訳けないことをした。とにかく、ここに面影をとどめる者一七七名、そのうち、卒業後一ぺんでも出会った友を数えてみると、たったの四〇名あまり。

次に、一年生入学当時の写真を取り出してみる。五三名中、私、その消息を知り得た友は一八名しかない。そのあまりの少なさに、いささかおどろいた。これは私が卒業後、皆の消息を知ること

に積極的でなかったせいでもあろう。そのことについては、皆におわびしなければならぬ。

それにしても、名簿をみて、いつもおもうことだが、関東地区に同窓の人達は、もともとというのではなからうか。案外、この会の存在を知らなかったり、忙しさにかまけて、つい連絡をしそびれたり、さしたる理由もなく御無沙汰、という向きもあろう。

そこで、みずからの過去を棚に上げて、まことに、おこがましくも皆さんに提言。われわれみんな同窓会や同期会には、さそいあって極力出席し、知るかぎりの情報を交換しあい、必要と思うことは事務局に連絡をとるなど、同期のみならず同窓の全員、コミュニケーションのタテ糸、ヨコ糸を織り

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤次郎(42回)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

鈴木株式会社

取締役会長 鈴木与平(44回)

清水市入船町11-1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

なして、疎遠となつて行きがちな人々の消息を意識的にひろいあげつなぎとめるよう、努力すべきではなからうか、と。(佐野豊彦)

### 五七回

昨年は三月と十二月の二回、同期会を開催した。十二月は年もおしつまつた二十四日、例によって東京八重洲口のおでんやで忘年会として行った。十八名が集り、しばし歓談に花が咲いた。

関東地区の同期生は五十名、同期会の出席者はこのところ十七、八である。しかし、開催通知に対し、欠席の場合で簡単な消息、出席できない事情を添え書きして返事をよこすのが大部分であり、宴席で世話人がこれを読み上げているので、出欠席にかかわらずコミュニケーションはよく行われていると思う。

本年は六月か七月、及び十一月か十二月の二回、同期会の開催を予定している。静岡の同期会本部からも何人かが参加することになっている。

明年、われわれ五七回生は卒業四十周年を迎える。本部ではこれを記念して、在校中の写真を各自から集め、これを整理して写真帖をつくることを計画している。詳

細は本部からの連絡や説明で次第に明らかになるはずである。

(影島利邦)

### 六六回

関東66期同期会—第一回—

毎年六月に行なわれる関東同窓会の席で、何とか同期の者だけで

集まろうという声が出ていたが、幹事の努力で、十一月七日(金)に東京駅前「唐人飯店」でそれが実現した。関東周辺には約70名の同期生が住んでいる。当日21人が集まり、食べかつ飲み、大いに旧交をあたためた。席上この集りを定期的に開催することがきまり、



66期関東同期会

於 唐人飯店

毎年「十一月第一金曜日」を予定日とすることとなった。

新幹事には田中俊男(留任)、山下智康(新任)の両君がきまつた。旧幹事の田村尚君には、今日の会場設定などいろいろと世話をしてもらった。今年はずっと沢山の旧友にお目にかかりたいので、十一月第一金曜はすべての約束を断って、集っていただきたい。尚、卒業後をはじめの66期同期会は、今年三月二十一日(春分の日)に母校同窓会館で開催され、盛会であった。(杉村行勇)

### 六七回

「67期」というのは、戦争末期の昭和二十年四月、静岡県立静岡中学校に入学し、二十六年三月、当時「静岡城内高校」と称した静岡を卒業するまでの六年間を共に学んだわれわれ二百五十人のことである。

その六年間には、いまからでは想像もしにくい実にさまざまなきとが起きた。

入学したのが、いまの長谷町の古い校舎。それが六月の静岡大空襲で焼けてしまう。終戦まではその焼け跡整理。戦争が終つてすぐ住友の軍需工場の跡を借りて授業を再開(住友仮校舎)したが、そ

## 凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1  
TEL (833) 2111 (大代表)

## 株式会社 講 談 社

取締役社長 野 間 省 一 (44回)

東京都文京区音羽 2-12-21  
TEL (945) 1111 (大代表)

れも翌二十一年二月火災で一部を失ない二部授業三部授業となる。そのまた翌年の二十二年一月に今度は三菱工場跡の仮校舎に移り、ようやく、授業の正常化が実現した。しかし、さらにその年の夏には城内の静岡連隊跡に移転するという苦難の時代が続く。

その間に六三制がスタート。二十三年には静岡中学校が、「静岡第一高等学校」になる。われわれはそのとき中学三年を終了し、静岡第一高校併設中学校を形の上だけ卒業する。つまり、新制中学校の第一回卒業生ということで、そのまま新制高校生になる。

それが翌年四月には校名が「静岡城内高校」に変わる。くわしいことは知らないが、そのときの話だと、何でも民主主義の時代になったのだから静中だけが静岡を代表するような「静岡第一高校」と称するのは不都合であるというクレームが米軍の静岡軍政部あたりからついたらしい。

かくてわれわれは六年間に三つの校名をもち、四カ所の校舎を転々とした。いまの学校教育からみると授業の内容も学校の施設もメチャメチャに近いものだった。ただ戦後の青年の意気込みだけは、いまより教段高かったように思

67期卒業30周年記念パーティー



う。  
ことは、そんなわたしたちの高校卒業三十年目に当たる。

四月四日、静岡グランドホテルで開いた卒業三十年記念同窓会には、静岡の地元ばかりでなく、全国各地から約百人が集まった。すでに九十歳を超してなおシャンとしておられる本告亮吉先生をはじめ恩師十数人も顔を見せてくださった。会場には家族席までつくれ、同期の一人であるNHKアナウンサー山川静夫君の司会でなかなかに会が進行していった。

まず校歌の斉唱。「大現神天皇の稜威を四方に輝かせ」という四番の最後まで歌い終えて、いつも思うのは、こういう歌をうたうことのできる最後の世代がわれわれなのか、という感慨である。幹事や先生方の話を聞きながらテーブルごとにとりとめのない話がいっつも続く。

やがて五十歳になろうとするわれわれにとつて、高校卒業後の三十年間は何だったろうか。卒業した年の九月に講和条約が調印され、町には「上海帰りのリル」が流れていた。翌年には流血のメーデー事件などが起き、まだ世の中は騒然としていた。そのころの国立大授業料が年額三千六百

円、早稲田大の文系が一万二千円。そばのもりかけが十五円から十七円ぐらいで、外で食事をするには外食券が必要だった。

混乱の時代に続く経済成長の中で、カミさんを見つけ子どもが生まれ、レジャー時代が来ても遊び方を知らず、何やらがむしゅらに働いて、気がついたら三十年たっていた、というのが多くの実感ではなからうか。

翌日のゴルフコンペには二日酔いにもめげず約二十人が参加した。

(大石修而)

### 六九回

69期はもう十年以上前より毎年五月か六月に東京分会をかかさず開いています。その割にこの通信欄にその記事がのらないのは、幹事が便りを書くより会を開いて楽しむことに興味がある人々ばかりで、ついつい無精をきめこんでしまうからです。69期東京分会は、静岡からも常連の方々が多数参加され、最低でも三十人はいつも集まっています。代表幹事であられた松本光郎氏が去年(昭和五十五年)二月十一日亡くなられたことは皆様御存知のことと思います。有志で一周忌に多摩霊園へお墓まいりを致しました。一人でも同期の友

人が欠けることは本当に淋しいことです。69期東京分会として現在名簿に登録されている会員は九十四名に達しています。この中には一度は東京もしくは東京近県に在住もしくは勤務されたが、現在は転勤されて東京を離れている方も五、六名おられます。しかし何としても東京分会の雰囲気よさで一度69期東京分会の会員になられた方は例え地の果アルジェリアに行かれたような会員であっても自分は69期東京分会の会員であると言う自覚を片時も忘れることはなかったようです。現在も海外に出られた方としては山下泉氏がマニラに、服部好秀氏はニューヨーク、板倉利朗氏は香港にと世界各国に会員が雄飛し活躍されておられます。山下氏などは69期東京分会マニラ支部長位の自覚は十分お持ちと拝察致しますので皆様とどしどしマニラにお出掛け下さい。

69期東京分会の開催通知がお手元にとどきましたら皆様万障くり合わせて御出席下さい。出席された方々には必ずや幸運の女神がほほえみかけることと思います。

(金田絢子)

### 七一回

我ら叩高71会ゴルフ・コンペ

インションも、四月二十九日をもって第五回を迎えた。この二年間、会員数も順調に増加し、やがて四十名に達するものと聞いている。

今回は初回と同じく富士ローヤルCCを会場とし、常連の59期奥沢徹先輩、それに初参加の大関博司、斉藤茂の両君を迎え、総勢二十五名の参集をいただいた。おりしも当日は、前線の通過による降雨が予報され、我々世話役の等しく心を痛めるところであったが、誠に幸いなことに絶好の日和りに恵まれ、ようやくにして緑を増したコース・コンディションと合わせ、必ずや好プレーが見られるものと期待された。

参加者数を四で除した残りの一名は、これまでずっと本会の面倒を見てきてくれた紅一点、後藤弘枝嬢である。毎回、プレーに参加されるようお奨めしてきたが、今回も乙女のはじらいをもって固辞されるところとなり、今回こそは優勝間違いなしと目されていた実力ナンバーワン小泉幸二プロのパーティの応援団としてラウンドされた。したがって、至極当然のことながら、第五回優勝の栄誉は同君に帰することとなり、目方一貫目余の大村正夫先生作のブロンズ像は、ズッシリと彼の両腕の内に

納まり、向う六ヶ月間彼の家宝となった。

なお、前回小生と優勝を争い、一〇アンダーの好スコアながら、これを逸した鈴木暉男君は、著しく減少したハンディキャップの重



荷にたえかねてか、今回はふるわず、B B賞にあまんじた。

前代未聞の珍プレーとしては、小生たちのパーティの木下雅夫君のインの17番の一打をあげておき

たい。ここは約一四〇メートルの打ちおろしのショートホールで、

グリーンの手前は池である。彼の一打は左寄りで、しかも、やや短く、あわや池の中かと思いきや、これが対岸の水際すれすれのコンクリートに当ってカチーンと大きく右に跳ねた。今度こそはポチャンかと思ったが、これがさにあらず、池の右側を飾っていた大きな石に当って再び左に跳ね、見事にワンオン。スリーバウンドめに旗の手前の絶好位置につけて、あわやパーデーだったという次第。ちなみに彼のスコアは、〇〇と〇〇という有様であった。

会員の多くの諸君のご厚志により、すべての参加者に賞品が渡されたが、なかでも、後藤嬢のお手になる美しいコサージュは、毎回の事ながら、感謝にたえない。また八木豊則君の発想に基づくところの山葵漬け付きのカマボコは、あたかも、鴨がネギを背負って来たかの如き感があつて、誠に好評であった。静岡駅頭などで入手可能との事。大量の寄贈を受けたためまもなく、一言PRをする次第である。次回は、十月第三日曜日

### 七八回

エカアドル駐在に際して

第七十八期の関東静中静高同窓会の幹事を鈴木藤男君(新潮社勤務)とやってきましたが、此度、南米のエカアドル国赴任に伴い、しばしお別れ、せねばならないのは誠に残念です。

私の勤務は例のグラマン事件以来、すっかり知名度があがり、遂に昨今も香港で為替投機で大損を蒙ったと連日、マスコミを賑わせている、謂わゆる「悪徳商社」のN社です。私自身、前回のアラブ首長国連邦アブダビ首長国の駐在以来、二度目の駐在となり、前回には三十才をアラビア湾の夕日を背に祝ったのに対し、今度は四十才の祝いは海拔二千八百六十メートルの高地で、おそらくヒタヒタせまる中年の体力の衰えのみならず富士山の七合目の高度に相当するキトー市での酸欠状態も加わり、かなりシンドイではないか、と覚悟している次第です。こうして考えてみるに、十年の歳月は、日本国及び日本人をしてかなり変貌させたのではないでしょうか。私自身、二十才代での赴任と言うこともあったのでしょうか、前回のアブダビ駐在の時恰も、日本国

経済の為、少しでも外貨を稼ぎ、少しでもお国の「お役」に立とうなどと、それこそ、その意気込みたるや凄まじく、勇躍、飛行機に乗り込んだ記憶があります。今回は、かなりシラケた「旅出」となるでしょう。自分自身が、名実共に中年の域に達し、女房子供の扶養家族がまつわりつきだした為ばかりではありません。やはり、

日本国自身の経済が増強され、外貨(勿論此の場合米ドルですが)がたまらないように苦慮するなど何処かの土地成金みたいな台詞が横行し、同時に身近な生々しい実例で言えば、航空機疑惑事件で、会社の為に粉骨砕身働かざることを言う美談が、まさにコペルニクス的大回転、むしろ「罪悪」になるのですから、当惑しない方が不思議な位。いずれにせよ、昨今は物事ホドホドに処するのが賢明らしく、よって私の二度目の海外勇飛も、「海外勇飛」などと張りきると即刻「アナクロ」と非難されさうで、さすれば

一、現地では、現地の人々と仲良くやり

一、彼地の日本社会で無用の磨擦を引きおこさぬよう仲良く暮し

一、何かの気まぐれでやってくる



日本のジャーナリストに無用の誤解を与えぬよう言動には注意して

一、偶々、何かの利権の臭いをかいて御来訪される国会のセンセイ方のツケヤキバの御意見・御感想を不用意にヒヤカシタリせぬよう  
充分気をつけて四年の任期をまっとおしたいと存じます。

以上、一部、週刊新潮に対するツラアテみたいな箇所には就いては七十八期幹事、鈴木藤男殿にお詫びする次第であります。

(永田明司)

八一回

成田に住んで丸三年になろうとしている。社会人となり三度目の転勤でこの地に来た。赴任当時、空港はまだ半開きの状態にあり、一般観覧者の受入れ態勢はなかった。新聞で見る限り、反対派デモ隊と機動隊が、いつもこざり合いをやっているヤバイところかと思っていたが、さすがに市街地からは遠隔地にあり、結構さわがれる空港の割には別の地にあるように感じられた。

社宅は、〃いわゆる成田ニュータウン〃とよばれる中にある。約十年前に整備が始められたよう

あるが、入居がさかんになったのは、ごく最近で、開港前までは実に活気に乏しく淋しいものであった。今いるところは、やはり東京周辺への通勤者も多く、地元の人

はごくごく少人数である。そんな訳で新しい町づくりには実に意欲的で、各種部活動、いも掘り、ソフボール大会といったリクレーション、ニュータウン祭り等々、新住民パワーには感心させられるものがある。

もともと農業中心の地であり、外部からの刺激も少なく、せいぜい成田山新勝寺のたたずまいをがんにこ守り通してきたが、さすがにこの二、三年の様変りは激しく、大手スーパーの進出、外人観光客、外部からの人口の流入など地元の人達にとっては隔世の感があるようである。

〃住めば都〃とは良く言ったものか、のんびり屋の私の気性によく合ったのか、澄んだ空気と明るい光のもとで、毎日を元気に暮らしています。子供達もまだまだ自然が残るこの地で十分体を鍛えさせたいと思っています。数年後にはまたこの地を離れることになると思いますが、仕事はもちろんのこと、日常生活でも地域密着をめざし十分成田の生活を堪能したいと

考えているこの頃です。

(古谷直樹)

江の島会近づく

関東同窓会傘下の江の島会は、神奈川県支部でもあるが、三十数年の歴史を持って居るだけに独自の特色をも持っている。単に神奈川県に在住あるいは在勤している同窓の会だけでなく、会の趣旨に賛同する者は期の新旧を問わず住所・勤務の遠近を論ぜずすべて仲間として歓迎する。もちろん年会費などなく、当日の参加費を主に運営される。毎年九月の第一日曜の正午から江の島の恵比寿屋で定例総会を開く。(今年は九月六日(日)なのでお忘れなく)幹事会は反省会・忘年会・新年会を兼ねて正月と総会準備の目的で七月に行なわれる。

今年の正月の懇親会は三十一日(土)から古都鎌倉の小町園(フランス料理)で盛大に開かれた。連日快晴続きとは言え日本国中が寒波に震え上がっていたところ、この日ばかりは風も無く小町園の紅梅も福寿草も優しくほころんで如何にも新年懇親会にふさわしい雰囲気をかもし出してくれた。遠路を問わず馳せ参じた会員二十名

—会長の永野清・畔柳安雄(35)

野崎操一(40) 井出多米夫・岩崎康・村松直(42) 今井志郎・西沢純三(43) 関東同窓会代表の奥野孝・月見里得知郎・園田芳男(53) 山本孫一(55) 内田武男・奥沢徹(59) 萩原将弘(61) 神谷貞子・松島玲子(69) 吉田修(70) 後藤弘枝(71) 滝井弘子(78) の岳南健男女の面々だった。会長のあいさつ、関東同窓会代表の祝辞に引き続き、畔柳先輩の乾杯の音頭で

期待の宴が始まった。自己紹介、近況報告、思い出話、歌、おどり等自主的出演で場内は笑いの渦に湧き立った。例によって時の経つのも忘れ、七時近くになって止むなく井出氏の指揮による校歌を四番迄大合唱し、村松氏の割れ返る様な発声による万歳三唱を最後に来たる七月の幹事会、九月六日の総会を約して名残を惜しみつつ、散会した。殊に九月六日の総会に参加者倍増で気焔を上げようと張り切っているが同窓諸子の奮ってのご参加を今から切望して止まない。あと九十日、一日一日と近づきつつあるのが今から楽しみでならない。(村松 直)

……過日(四月四日~五日)の東京遠征(バスケットボール部)につきましては、関東同窓会の皆様

に色々物心両面で大変お世話になり、ありがとうございます。

同期の花田守弘君(72期・三井生命勤務)より過分な激励金をいただき、関東同窓会の皆様の母校及び後輩によせる暖いご配慮を心から感謝致しております。本当にありがとうございます。

…… 試合の結果  
四月四日(土)  
三井生命柏スポーツセンター  
静岡50——63筑波大(新人)  
(28—43 22—20)  
静岡29——38筑波大(新人)  
四月五日(日)  
早稲田実業高校体育館  
静岡57——41早稲田実業  
(38—32 19—26)  
静岡41——17早稲田実業  
(41—17)

母校バスケット部より

川崎健三氏(72期) (静岡バス

静岡62——48東海大相模  
(40—24 22—24)  
宿泊所 三井生命野沢寮

## その後の同窓会活動

○五五年十一月十九日 幹事会

トッパンムア社会議室にて

会長以下三一名。議事左の通り、

一、五五年の回顧と五六年の展望

二、五六年新年会の件

67福原享一氏の中国関係講話を予定する。時期場所事務局一任。

三、七二回同級会発足の報告

深田均氏より別掲の同級会発足状況が報告され他期から祝福さる。

四、43長戸寛美氏紋勲と著書の件

が43西沢純三氏から披露された。

○五六年一月二十一日 新年会

詳細別掲の通り。

○四月九日 幹事会

トッパンムア社会議室にて。

奥野副会長他三十二名。議事次の通り。

一、五六年総会の件

六月十一日(後十七日に訂正)築地スエヒロに於て。例年通りとし

会費五千円、学生二千円。

準備の為五月十二日幹事会を行う

二、名簿の件

名簿修正の原稿を五月十二日まで

に提出する案に対し、修正の内容

は総会案内状の返信で判明するの

で、名簿発行時期を遅らせる事の

希望案が出され、審議したが、総

会に間に合はず事とし原案通りに

した。その後の変更は会報に随時

掲載することとした。

三、会報の件

編集委員から原稿依頼があり、又近く会費振込用紙の通信欄を整備活用して、各会員の会員だより欄を設ける企画が報告された。

四、ゴルフ会を五月十五日東名カントリーで行う計画が報告された

○五月十二日 幹事会

トッパンムア社会議室にて

堀副会長他三六名。議事次の通り。

一、五五年事業報告、会計報告及び五六年度事業計画案、予算案につき奥野副会長より説明。一括可決した。

二、役員改選の件

本年は役員改選に当るので、奥野副会長より、総会に於ける幹事会

案につき意見を求め、67成岡氏より現役員の再任が提案され全員一致で可決した。

本件は副会長から会長に報告し諒解を得る事とした。

三、総会準備委員の件

本年は偶数期の担当とし例年の通り実施する事とした。

四、総会案内状発送を依頼した。

進学新会員に対しては学生会員が担当する事となった。

## 会報(第十一号)

昭和56年6月17日 発行

編集人 月見里得知郎

発行所 静中・静高

関東同窓会

印刷所 庵原印刷所